

283

20

山口高等學校一覽

自昭和十九年
至昭和二十年



山口高等學校一覽

自昭和十九年
至昭和二十年



發行所寄贈本

283
20

山口高等學校一覽

自昭和二十九年

目次

○沿革略	一
○學年曆	一
○關係法令	一
一 文部省直轄諸學校官制(抄)	一四
二 文部省直轄諸學校職員定員令(抄)	一五
三 文部省直轄諸學校長職務規程	一六
四 文部省直轄諸學校備外國人ニ關スル規程	一七
五 學校及圖書館特別會計法(抄)	一七
六 高等學校令(抄)	一九
七 高等學校規程(抄)	二〇

目次

八	高等學校高等科教授及修練要綱(抄)	三一
九	山口高等學校設置授業開始(抄)	五二
十	高等學校高等科入學資格試驗規程	五二
十一	文部省直轄學校生徒ノ學校長ノ許可ヲクシテ受ケタル他ノ直轄諸學校入學試驗無効ニ關スル規程	五三
十二	高等學校高等科學力檢定規程	五四
十三	教員檢定ニ關スル規程(抄)	五五
十四	教員無試驗檢定ニ關スル指定學校名及學科目	五六
○學		
第一節	總則	五七
第二節	學年及學期	五七
第三節	入學及在學	五九
第四節	修了及卒業	六一
第五節	休學及退學	六二
第六節	懲戒	六四
第七節	授業料	六四

第八節	服制	六五
第九節	鴻南寮	六五
第十節	報國團及報國隊	六六
第十一節	圖書及機械器具	六六
○校訓		七〇
○生徒禮法		七一
第一	校旗ニ關スル禮法	七一
第二	屋內ニ於ケル禮法	七一
第三	屋外ニ於ケル禮法	七二
第四	其ノ他ノ禮法及心得	七二
○細則		七四
第一	生徒心得	七四
第二	學級主任	七四
第三	指導教官	七五
第四	學級總代	七五

第五 保證人……………七五

第六 授業……………七六

第七 缺席、缺課、遲到及忌引……………七七

第八 外泊、歸省及旅行……………七八

第九 服制……………七八

第十 鴻南寮……………八〇

第十一 圖書閱覽……………八三

第十二 集會、揭示及印刷物……………八四

第十三 試合及大會……………八四

○山口高等學校鴻南報團規則……………八六

○山口高等學校報國隊規程……………九一

○校務分掌規程……………九六

○御眞影竝勅語謄本奉護規程……………一〇五

○校旗規程……………一〇六

○職員……………一〇八

○事務分掌……………一一六

○山口高等學校鴻南報國隊員……………一一九

○生徒……………一二二

一 生徒氏名……………一二三

二 生徒學年別人員表……………一四〇

三 生徒及卒業者本籍別人員表……………一四四

四 昭和十九年入學者學歷別人員表……………一四四

五 卒業者進入大學別人員表……………一四四

舊山口高等學校卒業者名簿……………一

○沿 革 略

本校ノ創立ハ大正八年ニアリト雖モソノ道統ヲ原ヌレバ遙カニコレヲ遠キニ溯ラザルベカラズ抑々我方防長二州ハ古來文化發展ノ地トシテ特ニ著ハレ就中山口ハ大内氏統治ノ時代既ニ文教大イニ興隆シソノ獨自ノ學風ハ西學ヲ以テ稱セラレ碩學ノ輩出スルモノ多クカノ南學、薩摩學等ノ如キ何レモ皆ソノ淵源ヲコレニ發スト傳フ。降テ毛利氏ノ治ヲ二州ニ布クヤソノ家風ニ據リ學問ヲ勸獎シ吉元公ノ時萩ニ藩營明倫館ヲ創建セラレ學頭山縣周南等命ヲ奉ジ國體ニ基ケル篤實ノ學風ヲ樹立シ二州學事ノ基礎既ニ定マレリ、爾來歷世風ヲ承ケ統ヲ紹ギ、敬親公ニ至リ尊攘貫徹ノ意圖ノ下ニ治處ヲ山口ニ移サル、ヤ山口講習堂ヲ改メテ新ニ藩營山口明倫館ヲ創メ皇國君臣ノ大義ヲ明辨シ凜然國體ヲ主張スル皇朝學ヲ中心トナシ併セテ時代ノ進展ニ即應スル諸學ヲ兼修セシメ文學寮、兵學寮洋學寮等ノ組織コトニ備ハルニ至レリ、シカレドモ惜シイ哉明治三年ニ至リ山口明倫館ヲ山口中學ト改稱スルヤ全クソノ組織ヲ改メ且ツハソノ特色ヲモ失ヒシカバ明治十二年會禰荒助、江木千之氏等山口明倫館復興ノ建議ヲ爲セリ。明治十七年舊藩主毛利元徳公等防長教育ノ振興刷新ノ目的ヲ以テ防長教育會ヲ設立シ明治十九年十一月山口中學校ヲ山口高等中學校トナシテコレガ經營ニ當リ明治二十七年高等學校令ノ公布セラル、ヤ山口高等學校ト改稱セリ。シカルニ明治三十八年二月

ニ至リ防長教育會ノ資金ノ關係上山口高等學校廢止セラレソノ組織ヲ變更シテ山口高等商業學校ト改稱シ山口高等學校大學豫科ハ同校ニ移管セラレテ明治四十一年三月其ノ廢止セラレ、ニ至ルマデ二箇年間専ラ人材ノ養成ニ貢獻セリ、ソノ山口高等中學校ト稱セラレシヨリ實ニ二十年、卒業生ヲ出スコト八百七十三名ニ上レリ

シカレドモ縣出身ノ在京先輩有志及縣民ハ深ク山口高等學校ノ廢止ヲ遺憾トシ屢々之ガ再興ヲ企圖セリ、偶々大正六年高等教育機關擴張ノ議アルニ際シ在京ノ先輩有志及縣民ハ更ニ熱心ニソノ再興ヲ要望シ柴田家門氏等率先之ヲ政府ニ請願シ政府ノ意亦茲ニ在リシカバ防長教育會ヲ初メ毛利家一族、藤田兩家及久原家ノ寄附ニ係ル金五十万圓及山口町ノ提供セル敷地壹萬九千九百餘坪ニ縣費約貳萬圓ヲ併セテ之ヲ政府ニ寄附セリ、於是大正八年四月十日勅令第百十二號ヲ以テ山口高等學校設立セラレ山口明倫館以來ノ學統ヲ復活紹繼スルニ至レリ

大正八年 四月十四日勅令第百十二號ヲ以テ文部省直轄諸學校官制ニ改正ヲ施シ本校ヲ設置セラレ勅令第百十三號ヲ以テ本校職員ノ定員ヲ校長一人教授十六人書記三人ト定メラル、同月公立中學校長兼公立中學校教諭新保寅次山口高等學校教授ニ任ジ校長事務取扱ヲ命ゼラル、同月十六日文部省令第十三號ヲ以テ本校ノ位置ヲ山口縣吉敷郡山口町ニ定メラル、同日事務所ヲ文部省内ニ置ク、六月事務所ヲ山口縣立山口中學校内本校假校舍内ニ移ス、七月生徒百六十人ノ入學ヲ許可ス

九月授業ヲ開始ス同月山口縣吉敷郡山口町下堅小路外參簡所ニ於ケル民家ヲ本校學寮ニ代用ス、十月四日 教育ニ關スル勅語謄本ヲ拜戴ス

大正九年 六月勅令第百八十號ヲ以テ本校職員ノ定員ヲ教授二十人助教一人書記四人ニ改メラル同月本校教授新保寅次山口高等學校長兼教授ニ任ゼラル、同月山口縣吉敷郡山口町太刀賣ノ代用學寮ヲ廢ス、七月生徒百五十八人ノ入學ヲ許可ス、八月山口縣吉敷郡山口町大字上宇野令ノ新校舍ニ移轉ス、同月生徒百十七人ヲ本校構内ノ新築學寮ニ收容ス、十月五日 天皇陛下 皇后陛下ノ御眞影ヲ拜戴ス、同月十五日 閑院宮載仁親王殿下、同妃智惠子殿下本校ニ台臨アラセラル、校長新保寅次本校沿革及現狀ノ概略ヲ言上シ學校要覺ヲ奉呈ス職員一同ニ謁ヲ賜ヒ校庭ニ「ヒマラヤシ」ヲ御手植遊バサル

大正十年 三月勅令第五十號ヲ以テ本校職員ノ定員ヲ教授二十五人助教四人書記五人ニ改メラル同月生徒百四十四人ノ入學ヲ許可シ臺灣人二人、朝鮮人二人ノ特別入學ヲ許可ス、七月山口縣吉敷郡山口町下堅小路及同町白石ニ設ケタル代用學寮ヲ廢ス、八月本校敷地ノ引渡ヲ受ク

大正十一年 三月生徒百二十九人ヲ卒業セシム即チ本校第一回卒業生タリ、同月生徒百四十九人ノ入學ヲ許可シ又朝鮮人四人ノ特別入學ヲ許可ス、同月山口縣吉敷郡山口町荒高ニ設ケタル代用學寮ヲ廢ス、同月本校建築工事ニ關スル既定事業ヲ完成ス、五月十六日本校落成式ヲ舉行シ文部大

臣代理トシテ文部省専門學務局長松浦鎮次郎臨場セラル、十二月本校建物竝工作物ノ引渡ヲ受ク

大正十二年 三月生徒百二十六人ヲ卒業セシム、同月生徒百三十四人ノ入學ヲ許可シ又臺灣人一人

朝鮮人六人ノ特別入學ヲ許可ス

大正十三年 三月生徒百三十四人ヲ卒業セシム、同月生徒百四十八人ノ入學及臺灣人一人、朝鮮人

四人ノ特別入學ヲ許可ス

大正十四年 三月生徒百二十人ヲ卒業セシム、同月生徒百五十五人ノ入學及朝鮮人七人ノ特別入學

ヲ許可ス、同月備外國人教師野田官舎落成ス、四月勅令第八十一號ヲ以テ本校助教ノ定員ヲ三

人ニ改メラル、同月勅令第三百三十五號ヲ以テ陸軍現役將校學校配屬令ヲ公布セラレ同月二十四日

現役將校一名配屬セラル、六月勅令第二百十六號ヲ以テ本校書記ノ定員ヲ六名ニ改メラル、七月

新營ニ係ル備外國人教師官舎及工作物ノ引渡ヲ受ク

大正十五年 二月十五日 高松宮宣仁親王殿下本校ニ台臨アラセラル、三月生徒百四十四人ヲ卒業

セシム、同月生徒百五十一人ノ入學及臺灣人一人、朝鮮人八人ノ特別入學ヲ許可ス

五月二十九日 皇太子殿下本校ニ行啓アラセラル、校長新保寅次、教授戸澤正保ニ單獨拜謁ヲ賜

フ、校長言上書ヲ奉呈ス、教官一同ニ列立拜謁ヲ賜ヒ講堂ニ於テ生徒ヲ御親閱遊バサル、圖書閱

覽室ニ陳列セル考古學資料ヲ台覽アラセラル

本年ヨリ創立記念日ヲ十月十六日ニ改ム、十一月新築中ナリシ木造平家建物置落成ス

昭和二年 一月維持資金ヲ以テ備外國人教師官舎敷地二百四坪六分五勺ヲ買收ス三月生徒百四十八

人ヲ卒業セシム、同月備外國人教師向山官舎落成ス、四月生徒百五十二人ノ入學及朝鮮人三人ノ

特別入學ヲ許可ス、五月二十九日 皇太子殿下行啓記念トシテ校庭ニ月桂樹ヲ植栽ス、六月新營

ニ係ル備外國人教師官舎及工作物ノ引渡ヲ受ク、八月 御眞影竝 勅語謄本奉護規程ヲ制定ス、

同月舊山口高等學校出身者本莊熊次郎、松崎壽三、吉田眞一、中丸一平、岩田宙造、川部孫四郎

諸氏ノ寄附ニ係ル木造平家建生徒集會所落成シタルヲ以テ之ヲ受領ス、同月勅令第三百六十五號

ヲ以テ文部省直轄諸學校官制中改正、助手ヲ置クコトヲ得ソ一項ヲ加ヘラル、同日勅令第三百六

十六號ヲ以テ文部省直轄諸學校職員令中改正本校助手ノ定員ヲ一人ト定メラル

昭和三年 三月生徒百四十九人ヲ卒業セシム、同月生徒百五十人ノ入學及朝鮮人四人ノ特別入學ヲ

許可ス、十月九日 天皇陛下 皇后陛下 御眞影ヲ拜戴ス、同月勅令第二百五十六號ヲ以テ文部省

直轄諸學校官制中『生徒監』ヲ『生徒主事』ニ改メ『書記』ノ次ニ『生徒主事補』ヲ加ヘラレ勅

令第二百五十七號ヲ以テ文部省直轄諸學校職員令中改正、本校生徒主事及生徒主事補ノ定員

ヲ各一人ト定メラル、十一月十一日御即位大禮奉祝ノ式ヲ舉行ス、十二月御大典記念トシテ寮生

ノ寄附ニ係ル木造平家建寮生集會所ヲ受領ス、同月消防器具庫落成ス

昭和四年 三月生徒百三十三人ヲ卒業セシム、同月生徒百五十二人ノ入學及臺灣人二人、朝鮮人五人ノ特別入學ヲ許可ス、七月二日校長新保寅次松本高等學校長ニ任ゼラレ岩田博藏本校校長ニ任ゼラル、十月十六日本校創立十周年記念式ヲ舉行シ文部大臣代理トシテ文部省督學官野村禮讓臨場セラル、十二月本校出身者並地方有志者ノ寄附ニ係ル鐵骨鐵網製野球用固定ネットヲ受領ス

昭和五年 三月生徒百五十三人ヲ卒業セシム、同月生徒百五十四人ノ入學ヲ許可ス、十月本校職員生徒並卒業生及父兄緣故者ノ寄附ニ係ル前校長新保寅次ノ胸像ヲ受領ス

十一月十九日岡山市岡山練兵場ニ於テ岡山、廣島、山口三縣ノ諸團體ニ 天皇陛下ノ御親閱ヲ賜フ、本校ヨリ校長及職員生徒ノ代表二十八名參列ス、御親閱拜受章ヲ拜受ス、同月本校校友會ヨリ大弓及射塚ヲ弓道場トシテ寄附シタルヲ以テ之ヲ受領ス

昭和六年 二月五日曩ニ御下賜ノ 天皇陛下 皇后陛下ノ御眞影ヲ奉還シ新ニ 天皇陛下 皇后陛下ノ御眞影ヲ拜戴ス、三月生徒百四十七人ヲ卒業セシム、同月生徒百五十二人ノ入學ヲ許可ス、十一月渡邊祐策氏ノ寄附ニ係ル生徒體育用プール及プール用ポンプ室並井戸ヲ受領ス

昭和七年 一月生徒食堂落成ス、三月生徒百三十七人ヲ卒業セシム、同月生徒百三十五人ノ入學ヲ許可ス、同月勅令第三百九十五號ヲ以テ文部省直轄諸學校職員定員令中改正セラレ本校助教定員三人ヲ二人ニ助手定員一人ヲ削除セラル

昭和八年 三月生徒百三十八人ヲ卒業セシム、同月生徒百四十一人ノ入學ヲ許可ス

昭和九年 三月生徒百二十七人ヲ卒業セシム、同月生徒百十六人ノ入學ヲ許可ス、五月緣故者ヨリ寄附ニ係ル舊山口高等學校長河内信朝ノ胸像ヲ受領ス

昭和十年 一月雨天體操場落成ス、三月生徒百三十八人ヲ卒業セシム、同月生徒百十一人ノ入學ヲ許可ス、同月應接室落成ス、四月四日校長岩田博藏依願本官ヲ免ゼラレ弘前高等學校長中山文雄本校校長ニ任ゼラル、六月寮生ノ寄附ニ係ル木造平家建卓球室ヲ受領ス

昭和十一年 三月生徒百三十八人ヲ卒業セシム、同月生徒百十六人ノ入學ヲ許可ス、十月二十九日本校本館(教室、事務室、教官室等七三七坪五六)火災ノ爲燒失ス、同火災ノ爲 御眞影並勅語贈本ヲ山口高等商業學校ニ奉還ス

昭和十二年 三月生徒百二人ヲ卒業セシム、同月生徒百九人ノ入學ヲ許可ス、六月復舊工事中ノ本校本館落成並新設物置竣工シ七月之カ引渡ヲ受ク

昭和十三年 三月生徒九十九人ヲ卒業セシム、同月生徒百十八人ノ入學ヲ許可ス、四月二十五日校長中山文雄依願本官ヲ免ゼラレ弘前高等學校長安齋宏素本校校長ニ任ゼラル

十月十六日 御眞影並勅語贈本ヲ本校ニ奉還ス

昭和十四年 三月生徒百九人ヲ卒業セシム、同月生徒百三十九人ノ入學ヲ許可ス

五月二十二日東京宮城前廣場ニ於テ陸軍現役將校學校配屬令公布十五年記念式舉行セラレ全國各學校代表ニ 天皇陛下ノ御親閱ヲ賜フ、本校ヨリ校長及職員生徒ノ代表十三名參列ス、御親閱拜受章ヲ拜受ス、此ノ日青少年學徒ニ 勅語ヲ賜フ

八月十六日 青少年學徒ニ賜ハリタル勅語謄本ヲ奉戴ス

昭和十五年 三月生徒九十七人ヲ卒業セシム、同月生徒百八十五人ノ入學ヲ許可ス、理科甲類一學級ヲ增加ス、五月勅令第三百五十九號ヲ以テ本校職員ノ定員ヲ教授二十六人助教三人ニ改メラル、五月二十九日校長安齋宏素浦和高等學校長ニ任セラレ教學局勅任教學官藤本萬治本校校長ニ任ゼラル、十月三十日東京憲法記念館ニ於テ教育ニ關スル 勅語渙發五十年記念式舉行セラレ校長之ニ參列ス、十一月十日東京宮城前廣場ニ於テ紀元二千六百年式典舉行セラレ校長及職員ノ代表八名參列ス、十一月十一日紀元二千六百年奉祝會ニ校長及職員生徒代表十一名參列ス、十一月二十一日山口高等學校校友會ヲ改組シ山口高等學校報國團ヲ結成ス

昭和十六年 三月生徒百一十一人ヲ卒業セシム、同月生徒百七十六人ノ入學ヲ許可ス、同月増築中ノ教室(八〇坪二五)落成ス、五月勅令第五百九十九號ヲ以テ本校教授ノ定員二十六人ヲ二十八人ニ改メラル、九月山口高等學校報國團ノ内ニ山口高等學校報國隊ヲ編成ス、十一月一日文部省令第八十一號ヲ以テ昭和十七年度ニ於テ其ノ年度ニ卒業スベキ者ノ修業年限六箇月臨時短縮セララル、

十二月八日 米國及英國ニ對スル宣戰ノ詔書渙發セララル、翌九日大詔奉讀式ヲ舉行ス

昭和十七年 以後毎月八日大詔奉讀式ヲ舉行ス、三月生徒百二十五人ヲ卒業セシム、同月生徒百四十六人ノ入學ヲ許可ス、理科乙類一學級ヲ增加ス、同月二十日文部省令第三十一號ヲ以テ定メラレタル臨時學科課程並同月同日文部省訓令第七號ヲ以テ定メラレタル臨時教授要項ヲ四月一日ヨリ第一學年ニ實施ス、同月増築中ノ教室(五〇坪)落成ス、五月二十九日ヲ 皇太子殿下本校行啓記念日ト定メ記念式ヲ舉行ス、五月勅令第五百五十三號ヲ以テ本校教授定員二十八人ヲ三十一人ニ改メラル、七月二十四日日本校學則ヲ改正ス、九月修業年限臨時短縮ニ依リ生徒百四十七人ヲ卒業セシム、十一月勅令第七百四十九號ヲ以テ本校教授定員三十一人ヲ三十人ニ改メラル、本校出身戰歿者ノ寫眞ヲ奉掲スル室ヲ講堂階上ノ一室ニ設定シ之ヲ芳影室ト命名、十二月九日慰靈祭ヲ行フ

昭和十八年 三月勅令第三十八號ヲ以テ高等學校令改正、同月文部省令第二十七號ヲ以テ高等學校規程改正、同月文部省訓令第四號ヲ以テ高等學校高等科教授要綱改正、同月同令第五號ヲ以テ高等學校修練要綱改正、同月生徒二百四十人ノ入學ヲ許可ス、同月生徒合宿所ヲ「第一報國寮」ニ生徒集會所ヲ「第二報國寮」ト改稱、四月一日校長藤本萬治東京第一師範學校長ニ任セラレ第四高等學校教授兼第四高等學校生徒主事山本與吉本校校長ニ任ゼラル、同月勅令第三百八十一號ヲ

以テ本校教授定員三十人ヲ三十一人ニ助教授三人ヲ四人ニ改メラル、同月本校學則ヲ改正ス、九月文部省訓令第二十三號ヲ以テ昭和十六年文部省訓令第二十號教練教授要目中改正、同月修業年限短縮ニ依リ生徒百九十五人ヲ卒業セシム、十月勅令第七五五號ヲ以テ在學徵集延期臨時特例制定、十一月陸軍省令第五四號ヲ以テ修學繼續ノ爲ノ入營延期等ニ關スル件制定、同月文部省令第八十號ヲ以テ大學學部等ノ在學年限又ハ修業年限ノ昭和十九年度臨時短縮ニ關スル件制定、同月臨時徵兵検査ヲ受クベキ學生生徒ニ對スル臨時措置(發專二四一號通牒)ニ依リ生徒三十五人ヲ假卒業セシム、同月大東亞戰決戰ノ新段階ノ進捗ニ伴フ胸像等非常回收ニ依リ河内信朝、新保寅次兩校長ノ胸像供出ニツキ學式、十二月本校講堂ヲ「誓聲堂」、武道場ヲ「百鍊堂」、體育館ヲ「有備館」ト夫々佳稱

昭和十九年 二月勅令第七十號ヲ以テ本校教授定員三十一人ヲ三十人ニ改メラル、同月文部省令第五號ヲ以テ國民學校令等戰時特例施行規則制定、四月本校學則ヲ改正ス、同月生徒二百三十八人ノ入學ヲ許可ス

○學 年 曆

昭和十九年

四月一日(土) 學年開始、第一學期開始、第一學期授業開始、第一學年入學式

四月三日(月) 神武天皇祭

四月二十九日(土) 天長節祝賀式

五月十六日(火) 創立記念日

五月二十二日(月) 青少年學徒ニ賜ハリタル勅語奉讀式

六月七日(水) 第三學年臨時試驗開始

六月十日(土) 第三學年臨時試驗終結

七月十一日(火) 第一學期授業終結

七月十三日(木) 第一學期定期試驗開始

七月十八日(火) 第一學期定期試驗終結

七月二十一日(金) 夏季開始

八月二十日(日) 夏季終結、第一學期終結

八月二十一日(月) 第二學期開始、第二學期授業開始
 九月二十日(水) 卒業式
 秋分日 秋季皇靈祭
 十月十七日(火) 神嘗祭
 十一月三十日(月) 教育ニ關スル勅語奉讀式
 十一月三日(金) 明治節祝賀式
 十一月二十三日(木) 新嘗祭
 十二月十七日(日) 第二學期授業終結
 十二月十八日(月) 第二學期定期試驗開始
 十二月二十四日(日) 第二學期定期試驗終結
 十二月二十五日(月) 大正天皇祭、冬季開始
 十二月三十一日(日) 第二學期終結

昭和二十年
 一月一日(月) 一月一日祝賀式、第三學期開始
 一月五日(金) 冬季終結

一月六日(土) 第三學期授業開始
 二月十一日(日) 紀元節祝賀式
 二月十六日(金) 第三學期授業終結
 二月十七日(土) 第三學期定期試驗開始
 二月二十三日(金) 第三學期定期試驗終結
 二月二十四日(土) 春季開始
 三月十五日(木) 春季終結
 春季皇靈祭
 三月三十一日(土) 第三學期終結、學年終結

三 文部省直轄諸學校長職務規程

(大正二年六月文部省訓令、大正八年、九年號外ヲ以テ改正)

- 第一條 校長ハ判任官ノ進退ヲ具狀シ及高等官ノ進退ニ付意見ヲ具ヘテ文部大臣ニ稟申スルコトヲ得
- 第二條 校長事故アルトキハ文部大臣ノ許可ヲ經テ高等官ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシムルコトヲ得
- 第三條 左ノ事項ハ校長之ヲ專行スベシ但シ第六號及第八號ニ關シテハ處分後文部大臣ニ報告スベシ
- 第一 教官ノ學科擔任及事務員ノ分課ヲ定ムルコト
- 第二 規則ノ施行上必要ナル細則ヲ設クルコト
- 第三 俸給月額八拾五圓以下ノ雇員ノ進退ニ關スルコト
- 第四 教官以下ノ内國各地出張ニ關スルコト
- 第五 教官以下ノ除服出仕請暇ニ關スルコト
- 第六 講師ノ解囑及其ノ報酬減額ニ關スルコト
- 第七 經費中ノ目ヲ流用スルコト
- 第八 三日以來ノ臨時休業ヲ爲スコト

第四條 前條ニ掲ケタル事項ノ外文部大臣ノ許可ヲ受ケ之ヲ施行スベシ

四 文部省直轄諸學校備外國人ニ關スル規定

(明治二十六年九月勅令第九十六號)

帝國大學及文部省直轄諸學校ニ於テ學科教授ノ必要アルトキハ帝國大學總長及直轄諸學校長ハ文部大臣ノ許可ヲ受ケ備外國人ヲシテ教育ノ職務ニ當ラシムルコトヲ得

五 學校及圖書館特別會計法 (抄)

- 第一條 帝國大學、其ノ他ノ官立大學及文部省直轄諸學校(以下大學及學校ト稱ス)ハ之ヲ通ジテ一ノ特別會計ヲ立テ資金ヲ所有シ政府支出金、資金ヨリ生ズル收入、授業料、寄附金其ノ他ノ收入ヲ以テ其ノ一切ノ歳出ニ充テシム
- 第二條 前條ノ政府支出金ハ毎年度豫算ノ定ムル所ニ依リ一般會計ヨリ之ヲ繰入ルルモノトス
- 第三條 本會計ノ歳入歳出ハ帝國大學、官立大學及直轄諸學校ニ區分シ之ヲ整理スベシ
- 第五條 大學及學校ノ資金ハ政府ヨリ交付ヲ受ケ又ハ寄附ヲ受ケタル動産及不動産並ニ歳入殘餘ヨリ成ル
- 第六條 大學及學校ノ資金ハ帝國大學、官立大學及直轄諸學校ニ區分シ之ヲ整理スベシ但シ第四條

文部省直轄諸學校備外國人ニ關スル規定
學校及圖書館特別會計法(抄)

- ノ施行豫算ノ歳入殘餘ヨリ成ル分ハ更ニ各大學及學校毎ニ區分シ之ヲ整理スベシ
- 第七條 大學及學校ノ資金ハ大學及學校ノ歳出ニ充ツル爲必要アル場合又ハ特別ノ事由アリ且資金所有ノ目的ニ反セザル場合ニ限り勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ支消スルコトヲ得但シ用途指定ニ係ル資金ニ付テハ用途指定者ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス
- 第九條 特ニ用途ヲ指定シタル寄附金ハ其ノ條件ニ從ヒ之ヲ使用スベシ
- 第十條 獎學ヲ目的トスル寄附金ハ之ヲ當該大學又ハ學校ニ交付シ總長若ハ學長又ハ學校長ニ經理ヲ委任スルコトヲ得
- 前項ノ規定ニ依ル委任經理ニ係ル會計ノ検査ハ會計検査法第十六條ノ規定ニ依ル
- 第十一條 政府ハ毎年本會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト共ニ之ヲ帝國議會ニ提出スベシ
- 第十二條 大學及學校ニ屬スル收入ヲ以テ其ノ歳出ヲ支辨シ別ニ政府支出金ヲ要セザルニ至リタルトキハ當該大學及學校ノ爲ニ特別會計ヲ設クルモノトス
- 第十三條 本會計ノ收入支出ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

六 高等學校令(抄)

(大正七年勅令第三百八十九號
改正昭和十八年勅令第三十八號)

- 第一條 高等學校ハ皇國ノ道ニ則リテ男子ニ精深ナル程度ニ於テ高等普通教育ヲ施シ國家有用ノ人物ヲ鍊成シ大學教育ノ基礎ヲラシムルヲ以テ目的トス
- 第七條 高等學校ノ修業年限ハ六年トシ高等科二年尋常科四年トス
- 高等學校ハ高等科ノミヲ置クコトヲ得
- 第八條 高等學校高等科ヲ分チ文科及理科トス
- 第十二條 高等學校高等科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ當該學校尋常科ヲ修了シタル者、中學校ヲ卒業シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認メラレタル者トス
- 第十三條 高等學校ノ生徒定數ハ高等科四百八十人以内尋常科三百二十人以内トシ第七條第二項ノ高等學校ニ在リテハ六百人以上トス
- 第十四條 高等學校ニ於テハ同科同學年ノ生徒ヲ以テ學級ヲ編制スベシ
- 一學級ノ生徒定數ハ四十人以上トス
- 第十五條 高等學校ニ於テハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ學科目ノ種類ニ從ヒ學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得
- 第十六條 高等學校ノ教員ハ文部大臣ノ授與シタル高等學校教員免許狀ヲ有スル者タルコトヲ要ス但シ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ免許狀ヲ有セサル者ヲ之ニ充ツルコトヲ得

高等學校教員免許狀ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十七條 高等學校ノ設備、編制、學科目及其ノ程度、教授訓練、教科書並生徒ノ入學退學及懲戒、授業料入學料等ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

附 則 (昭和十八年勅令第三十八號)

本令ハ昭和十八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ高等學校高等科ニ在學スル生徒(文部大臣ノ定ムル者ヲ除ク)ニ付テハ其ノ修業年限ハ第七條第一項ノ改正規定ニ拘ラズ仍従前ノ例ニ依ル

中學校令ニ依ル中學校若ハ中等學校令第二十條ノ規定ニ依ル中學校ノ第四學年ヲ修了シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認メラレタル者ハ第十二條ノ改正規定ニ拘ラズ高等學校高等科ニ入學スルコトヲ得

七 高等學校規程(抄) (昭和十八年三月文部省令第二十七號)

第一章 總 則

第一條 高等學校ニ於テハ高等學校令第一條ノ本旨ニ基キ左記事項ニ留意シテ生徒ヲ教育スベシ

一 國體ノ本義ニ徹シ世界ニ於ケル皇國ノ使命ヲ體得シテ至誠盡忠克ク國家ノ重キニ任ジ天業ヲ

翼贊シ奉ルベキ人材ヲ鍊成スベシ

二 敬神崇祖ノ念ニ篤ク氣節ヲ尙ビ廉恥ヲ重ンジ剛毅果斷ニシテ高邁濶達ノ氣宇ニ富ム人物ヲ育成スベシ

三 修文練武心身一體ノ鍛鍊ヲ重ンジ體質剛健ノ氣風ヲ振勵シ風紀禮節ノ嚴正ヲ期スベシ

四 稽古照今學行一致ノ學風ヲ振起シ思索ヲ精ニシ識見ヲ長ジテ文化創造ノ根源力ニ培フベシ

第二條 高等學校ニ於ケル授業ハ教授及修練トス

教授及修練ハ一體トシテ之ヲ課スベシ

第三條 高等科ニ於ケル授業日數ハ學則中ニ之ヲ規定スベシ

第四條 非常變災其ノ他急迫ノ事情アルトキハ臨時授業ヲ行ハザルコトヲ得

第五條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第六條 學年ヲ分チテ左ノ三學期トス

第一學期 四月一日ヨリ八月二十日迄

第二學期 八月二十一日ヨリ十二月三十一日迄

第三學期 一月一日ヨリ三月三十一日迄

第七條 紀元節、天長節、明治節及一月一日ニハ職員及生徒學校ニ參集シテ祝賀ノ式ヲ行フベシ

第二章 教授

第十條 高等科文科ノ學科目ハ道義科、古典科、歷史科、經國科、哲學科、自然科、外國語科、教練科及體鍊科トシ外ニ選修科ヲ置ク

選修科ニ於テハ古典及歴史ヲ中心トスル事項又ハ外國語科ニ於テ履修セザル外國語ノ中一ヲ履修セシム

外國語ハ外國語科ニ在リテハ獨語、英語又ハ佛語トシ選修科ニ在リテハ獨語、英語、佛語、支那語等トス

第十一條 高等科文科ノ各學年ニ於ケル最低教授時數ハ左表ニ依ルベシ

學科目	第一學年	第二學年
道義科	三五	三五
古典科	二〇〇	二〇〇
歷史科	一六五	一六五
經國科	六五	一三〇
哲學科	六五	六五

自然科	外國語科	教練科	體鍊科	選修科	合計
六五	二〇〇	二三六	六五	一六五	一、二六一
六五	二〇〇	二三六	六五	一〇〇	一、二六一

第十二條 高等科理科ノ學科目ハ道義科、人文科、數學科、物理科、化學科、博物科、外國語科、教練科及體鍊科トス

外國語ハ獨語及英語トス

第十三條 高等科理科ハ之ヲ甲類及乙類ニ分ツ

第十四條 高等科理科ノ各學年ニ於ケル最低教授時數ハ左表ニ依ルベシ

甲類

學科目	第一學年	第二學年
道義科	三五	三五

付檢定シタルモノ又ハ當該學校ニ特ニ關係アルモノニシテ學校長ニ於テ文部大臣ノ認可ヲ受ケタルモノタルベシ

第三章 修 練

第十九條 高等科ニ於ケル修練ハ生徒ノ全生活ヲ對象トシテ之ヲ行フ

第二十條 高等科ニ於テハ生徒ヲ寮舎ニ收容シテ修練ヲ爲スベシ但シ寮舎ニ收容シ得ザル生徒ニ對シテハ宿舍其ノ他ニ關シ適切ナル指導ヲ爲スベシ

第二十一條 高等科ノ修練要綱ハ別ニ之ヲ定ム

第四章 編 制

第二十二條 高等科ニ於テハ學級ノ異ル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授シ又ハ學級ヲ分割シテ之ヲ教授スルコトヲ得

第五章 設 備

第二十四條 高等學校ニ於テハ校地、校舎、寮舎、體操場、校具其ノ他必要ナル設備ヲ備フベシ

第二十五條 高等學校ニ於テハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外左ノ表簿ヲ備フベシ

- 一 學則、學年曆、週課表及日課表
- 二 教科圖書配當表、教授進度表及實施教授時數表

三 職員ノ名簿、履歷書、擔任學科目及時間表並ニ修練ニ關スル擔任事項表

四 生徒ノ學籍簿、出席簿、身體檢查ニ關スル表簿及兵役ニ關スル書類

五 試驗ノ問題及答案並ニ教授及修練ノ成績表

六 寮舎ニ關スル表簿

七 資産原簿、備品目錄、出納簿及經費ノ豫算決算ニ關スル帳簿

學籍簿ニハ生徒ノ氏名、生年月日、族籍、本籍、住所、入學前ノ學歷、入學及卒業ノ年月日、轉學退學ノ年月日及其ノ事由、兵役ニ關スル事項、保證人ノ氏名及住所等ヲ記載スベシ

第六章 入學、退學、懲戒等

第二十六條 生徒ヲ入學セシムベキ時期ハ學年ノ始ヨリ三十日以内トス

第二十九條 尋常科ヲ修了シタル者ハ其ノ他ノ志願者ニ先チテ之ヲ當該高等學校高等科ニ入學セシムベシ

第三十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ高等科ノ入學ニ關シ中學校ヲ卒業シタル者又ハ昭和十八年勅令第三十八號附則第三項ノ規定ニ依ル中學校ノ第四學年ヲ修了シタル者ト同等以上ノ學力アリ

ト認ム

一 他ノ高等學校尋常科ヲ修了シタル者

- 二 高等學校高等科入學資格試験ニ合格シタル者
- 三 専門學校入學者檢定規程ニ依リ試験檢定ニ合格シタル者
- 四 文部大臣ニ於テ高等學校高等科ノ入學ニ關シ指定シタル者
- 五 文部大臣ニ於テ一般ノ専門學校ノ入學ニ關シ中學校卒業者ト同等以上ノ學力アリト指定シタル者

前項ノ資格試験ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム。

第三十一條 高等科ニ於テハ入學志願者ニ對シ人物考査、學力試験及身體檢査ノ結果ト入學前ニ在學シタル學校ノ調査書トヲ綜合判定シテ入學者ヲ選拔スベシ但シ當該高等學校尋常科ヲ修了シタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第三十二條 高等學校生徒ニシテ學籍ヲ失ヒタル者其ノ學籍ヲ失ヒタルトキヨリ二年以内ニ再入學ヲ志願シタルトキハ詮衡ノ上當該學年又ハ翌學年ノ始ヨリ三十日以内ニ於テ同一學年以下ノ學年ニ限リ入學ヲ許可スルコトヲ得

第三十三條 高等學校生徒ニシテ他ノ高等學校ニ轉學ヲ志望スル者アルトキハ關係學校長ノ協議ニ依リ之ヲ許可スルコトヲ得

第三十五條 高等科ニ於テ各學年ノ修了又ハ高等科ノ卒業ヲ認ムルニハ平素ノ授業並ニ學科目ノ試

驗ノ成績ヲ考査シテ之ヲ定ムベシ但シ正當ノ事由アリテ試験ニ缺席シタル者ニ對シテハ平素ノ授業ノ成績ノミヲ考査シテ之ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ試験ハ學校長ノ見込ニ依リ之ヲ行ハザルコトヲ得

第三十六條 學校長ハ尋常科ヲ修了セリト認メタル者ニハ修了證書ヲ、高等科ヲ卒業セリト認メタル者ニハ卒業證書ヲ授與スベシ

第三十七條 學校長ハ正當ノ事由アリト認メタルトキハ生徒ノ休學ヲ許可シ又ハ命ズルコトヲ得

第三十八條 學校長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ退學ヲ命ズベシ

一 性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者

二 學力劣等又ハ身體虛弱ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者

三 正當ノ事由ナクシテ引續キ一月以上缺席シ又ハ出席常ナラザル者

第三十九條 生徒退學セントスルトキハ學校長ノ許可ヲ受クベシ

第四十條 學校長ハ教育上必要ト認メタルトキハ生徒ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得

第八章 雜 則

第四十三條 學則中ニ規定スベキ事項凡左ノ如シ

- 一 學年、學期、授業日數等ニ關スル事項

- 二 教授及修練ニ關スル事項
- 三 修了及卒業ノ認定ニ關スル事項
- 四 入學、退學、懲戒等ニ關スル事項
- 五 授業料、入學料等ニ關スル事項
- 六 寮舎ニ關スル事項

附 則

本令ハ昭和十八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
 昭和十七年文部省令第三十一號ハ之ヲ廢止ス
 本令施行ノ際現ニ在學スル生徒ニ課スベキ學科目及其ノ程度ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル但シ本令ノ規定ヲ斟酌スルコトヲ得
 本令施行ノ際現ニ寮舎ヲ有セザルモノハ第二十四條ノ規定ニ拘ラズ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得
 本令施行ノ際現ニ修業年限三年ノ高等科ニ在學スル生徒ニシテ昭和二十年三月三十一日迄ニ卒業スル見込ナキニ至リタルモノニ付テハ昭和十八年勅令第三十八號附則第二項ノ規定ヲ適用セズ
 前項ノ規定ノ適用ヲ受クルニ至リタル生徒ノ屬スベキ學年ハ學校長之ヲ定ムベシ

八 高等學校高等科教授要綱(抄)

(昭和十八年三月文部省訓令第四號別冊)

教授ハ高等學校教育ノ方針ニ基キ左記事項ニ留意シテ之ヲ實施スベシ

- 一 常ニ國家經綸ノ大本ニ立チ指導ノ人材タル志操ノ鍊磨ト識見ノ涵養トヲ第一義ト爲スコト
- 二 古典ノ味讀ト歴史ノ體認トヲ以テ學習態度ノ根幹ト爲シ先哲偉人ノ遺業ヲ繼承シテ國運ノ發展ニ挺身スル志ヲ固メシムルコト
- 三 實踐體得ヲ重ンジテ自發的ナル研究態度ヲ涵養シ切磋琢磨、師弟同行ノ實ヲ擧グルコト
- 四 教材ヲ精選シ所定時間内ニ其ノ要核ヲ徹底セシムルコト
- 五 全學科目ノ綜合統一ヲ圖ルト共ニ教授ト修練トノ一體化ニ力メ特ニ關係學科目ニ於ケル教師相互ノ協力ニ依リテ教授ノ徹底ヲ期スルコト
- 六 中等學校教育ト密接ナル連繫ヲ保チテ教授效果ヲ適切ナラシムルコト

○道 義 科

道義科ハ高等學校教育ノ中樞トシテ國體觀念ヲ明徴ニシ皇國臣民ノ道ヲ實踐シ克ク天業恢弘ヲ翼贊シ奉ル任ニ堪フベキ徳器ヲ成就セシムルヲ以テ要旨トス

- 一 常ニ教育ニ關スル勅語、青少年學徒ニ賜ハリタル勅語ヲ始メ神勅、聖訓ノ奉體ニ徹底セシムル

ヤウカムベシ

二 皇國ノ道ヲ明ニシ祖先ノ遺風ヲ顯彰シ以テ國民の信念ヲ啓培シ特ニ國典・國史・先哲偉人ノ精神ヲ體得セシムルヤウカムベシ

○古 典 科

古典科ハ古典トシテノ國書漢籍ヲ修得セシメ醇正ナル國語ノ理會及發表ノ能力ヲ養ヒ國體ノ本義ヲ明徴ニシ國民精神ノ神髓ヲ感得セシメテ皇國ノ傳統ヲ護持シ其ノ生々發展ニ資セシムルヲ以テ要旨トス

一 國書ニ付テハ古典ノ精神ト表現トヲ會得セシメ以テ皇國發展ノ根基ニ培ハシムベシ
國語ニ付テハ其ノ正確ナル理會及發表ノ能力ヲ養ヒ國語ガ國民ノ思考感動ヲ具現シ且形成スルモノナル所以ヲ會得セシメ國語尊重ノ念ヲ養フベシ

二 漢籍ニ付テハ東洋思想ト其ノ表現トヲ會得セシメ其等ガ皇國ノ思想ニ醇化シタル跡ヲ明ニシテ國民精神ノ涵養ニ資シ以テ大東亞ノ建設ニ寄與セシムベシ

○歷 史 科

歴史科ハ肇國精神ノ史の顯現ヲ詳ニシテ國體ノ精華、文化ノ傳統、皇國ノ現勢ヲ闡明シ國民の信念ヲ愈鞏固ナラシムルト共ニ汎ク東亞及世界ニ於ケル國家・民族・文化ノ興亡盛衰ノ因由・様相ヲ究

メ特ニ其ノ主流ト現勢トヲ明ニシテ皇國ノ世界史の使命ヲ體得セシメ其ノ實踐ニ資スルヲ以テ要旨トス

一 皇國、東洋、西洋ノ三部ハ密接ナル全體的關聯ノ下ニ本科ノ目的ヲ達成スベシ

二 皇國ノ部ニ在リテハ肇國精神ガ連綿トシテ皇國ノ史績ニ顯現セルコトヲ明ニシ之ニ基キテ我が國文化ノ傳統、時代ノ様相ヲ究ムルト共ニ常ニ世界ノ動向ヲ省察シ皇國ノ使命ノ自覺ト實踐トニ培フベシ

三 東洋ノ部ニ在リテハ大東亞建設ノ意義ニ鑑ミアジヤノ諸國・諸民族ノ興亡盛衰ト其ノ政治・文化ノ消長トヲ明ニシ皇國民タル自覺ニ基ク興亞ノ精神ヲ發揚セシムベシ

四 西洋ノ部ニ在リテハ現下ニ於ケル世界秩序變革ノ趨勢ニ鑑ミ歐米ノ歴史の性格ヲ總括的ニ把握セシメ以テ皇國ノ歴史の性格及其ノ世界史の地位・使命ニ對スル認識ト自覺トヲ昂揚セシムベシ

五 特殊問題ハ史上重要ナル事項ヲ選ビ各部ノ概説ト並行シテ之ヲ教授シ歴史ニ對スル興味ヲ喚起スルト共ニ自發的研究ノ風ヲ振作シ歴史の識見ヲ長ゼシムベシ

○經 國 科

經國科ハ皇國及皇國ヲ中心トスル世界ノ地理、經濟、政治ニ關スル具體的事實ノ解明ヲ通ジテ其ノ現實ノ情勢ヲ會得セシメ皇國臣民タル自覺ト識見トヲ涵養シ克ク經國濟民ノ任ニ堪フベキ材幹ヲ鍊

成スルヲ以テ要旨トス

- 一 皇國臣民タル自覺ノ下ニ經國の識見ヲ養ハシムル目的ヲ以テ先ヅ世界地理ノ大要ヲ解説シ地理的諸事情ガ政治、經濟ニトリテ重要ナル所以ヲ會得セシメ次デ我が國政治並ニ經濟ノ主要事項ヲ中心トシテ略說シ皇國ノ政治・經濟ニ一貫スル基本理念ヲ明ナラシムルト共ニ現實ニ即シテ國家經綸ニ關スル綜合的知識ヲ與ヘ此等ニ關スル考究ノ熱意ヲ起サシムベシ
- 二 地理、經濟、政治ニ關スル事項ヲ夫々専門的ニ教授スルコトナク本科ノ要旨ニ鑑ミ一體の關聯ヲ保チテ學習セシムルヤウカムベシ

○哲學科

哲學科ハ具體的ナル人間生活ノ觀察ヲ通ジテ精神活動ノ諸相並ニ國民性・民族性ノ特質ニ付テ明確ナル認識ヲ得シムルト共ニ其ノ根柢ニ精深ナル反省ヲ加ヘ内外思想ヲ批判檢討シ國體ニ淵源スル國民的世界觀ヲ醇化固成セシメ以テ皇國ノ道ヲ宣揚スルヲ以テ要旨トス

○人文科

人文科ハ古典ノ味讀ト歴史ノ體認トヲ根基トシテ肇國精神ノ史的顯現、我が國文化ノ精髓、世界文化ノ推移、世界ノ現勢等ニ付テ考察セシメ國家經綸ニ對スル識見ニ培ヒ正シキ學問觀ノ體得ニ資スルト共ニ的確ナル發表能力ヲ養成スルヲ以テ要旨トス

○自然科

自然科ハ科學及技術ニ於ケル重要ナル知見ヲ與ヘ科學的ナル考察處理ノ態度方法ヲ會得セシムルト共ニ我が國ノ科學及技術ニ對シテ正シキ識見ヲ懷カシムルヲ以テ要旨トス

○數學科

數學科ハ直觀ト論理トヲ一體トシテ數、量、空間ニ關スル基礎的ナル概念及研究方法ヲ體得セシメ數理ヲ探究シ活用セントスル態度ト事物現象ヲ正確ニ考察シ處理スル能力トヲ鍊磨シテ實踐力ト獨創力トノ根基ニ培フヲ以テ要旨トス

- 一 數學ノ部ト圖學ノ部トハ密接ナル全體の關聯ノ下ニ本科ノ目的ノ達成ニカムベシ
- 二 數學ノ部ニ在リテハ先ヅ直觀ヲ重ンジテ大綱の概念ヲ導入シ之ヲ融合的ニ活用セシムルコトニ力ヲ注ギ漸次嚴正ニ數理ヲ取扱ヒ深ク數理ヲ追求セントスル態度ト正確ニ事物ヲ考察スル能力トノ鍊磨ニ進ムト共ニ隨時實際的ナル例ヲ舉ゲテ數學ト他學科トノ關聯ヲ明ニシ應用力ノ涵養ニカムベシ特ニ演習ヲ重視シテ數理ノ運用ニ習熟セシメ且自發的研究心ノ喚起ヲ期スベシ
- 三 圖學ノ部ニ在リテハ事物ノ形態ヲ平面上ニ正確ニ畫ク方法ト技術トヲ習得セシメ空間的對象ヲ考察シ處理スル能力ヲ鍊磨シ之ヲ生活ノ實踐ニ導クヤウカメ特ニ讀圖能力ノ養成ニ留意スベシ

○物理科

物理科ハ物理現象ニ關スル知識ト研究方法トノ基礎ヲ體得セシメ自然ヲ探求セントスル精神ト修得セル知識技能ヲ活用シテ國運發展ノ實ヲ擧ゲントスル態度トヲ鍊磨シ實踐力ト獨創力トノ根基ニ培フヲ以テ要旨トス

- 一 事物ニ即シテ知識ヲ與フルコトヲ重視スベシ
- 二 基礎的ナル事項ニ付テ十分ナル理會ト應用ノ能力トヲ與フルヲ以テ主眼トシ徒ニ教授内容ヲ量的ニ豐富ナラシメ若ハ體系のニ之ヲ整備スルコトニ捉ハレザルヤウ留意スベシ
- 三 事物現象ニ對スル綿密慎重ナル研究態度ヲ體得セシムルト共ニ之ヲ全體的、要約的ニ把握スル能力ヲ涵養スベシ

四 日常身邊ノ事象ニ關シテモ常ニ物理的考察處理ヲ行フ習慣ヲ養フベシ

五 適當ナル事項ニ付テ徹底のナル究明ヲ爲サシメ研究ニ於ケル態度・方法ノ會得ニ資スベシ

○化學科

化學科ハ化學現象ニ關スル知識ト研究方法トノ基礎ヲ體得セシメ自然ヲ探究セントスル精神ト修得セル知識技能ヲ活用シテ國運發展ノ實ヲ擧ゲントスル態度トヲ鍊磨シ實踐力ト獨創力トノ根基ニ培フヲ以テ要旨トス

一 教授内容ハ徒ニ之ヲ量的ニ豐富ナラシメ若ハ之ヲ体系的ニ整備スルコトニ捉ハルルコトナク寧

ロ其ノ取扱ノ徹底ヲ期スベシ

二 實驗及觀察ヲ基礎トシテ根本的ナル事象ニ對スル理會ヲ與フルコトニ重點ヲ置キ羅列的ナル知識ノ注入ニ陥ラザルヤウ留意スベシ

三 周到ナル立案ト準備トノ下ニ實驗及計算演習ノ指導ヲ行ヒ其ノ結果ニ關聯シテ講義又ハ問答ヲ行フベシ隨時參考書ニ依ル自習ノ課題或ハ研究考察ノ問題ヲ與ヘ教授ト相俟ツテ生徒ノ自發的學習態度ヲ誘起スルニ力ムベシ

四 適切ナル事項ニ付テ理論ト應用トノ連繫ヲ十分ニ會得セシメ化學ノ發達方國防、産業、經濟並ニ國民ノ生活ト如何ニ緊密ナル關係ヲ有スルカヲ具體的ニ把握セシムベシ

五 先人ノ發明・發見ノ由來ヲ説述シ且未解決ノ問題ノ在處及新ナル應用ノ可能性ニ對スル暗示ヲ與フルコトニ依リテ生徒ノ研究心ヲ振起スルコトニ力ムベシ又今日ノ如何ナル學說、知見ニモ歴史的背景ノ存スルコトヲ理會セシムベシ

○博物科

博物科ハ生物及生物現象並ニ地殼構成物質及地學的現象ニ關スル研究方法ト知識トノ基礎ヲ體得セシメ之ガ國民生活及國力増進ニ重要ナル所以ヲ知ラシメ修得セル知識ト技能トヲ活用シテ國運發展ノ實ヲ擧ゲントスル態度ヲ鍊磨シ實踐力ト獨創力トノ根基ニ培ヒ生物愛育・國土愛護ノ念ヲ涵養ス

ルヲ以テ要旨トス

- 一 自然ニ親シミ眞摯ナル研究の態度ヲ以テ其ノ實相ヲ究明セントスル精神ヲ喚起シ科學的ナル考察處理ノ能力ヲ鍊磨シ國民性ニ根ザセル生命觀・自然觀ヲ正シク把持シテ益其ノ内容ヲ豊ニ發展セシメントスル熱情ニ培フベシ
- 二 生物ノ部ト地學ノ部トハ緊密ナル關係ヲ保チテ本科ノ目的達成ニカムベシ
- 三 生物、礦物及生物學的研究、地學的研究ノ國家的意義ノ重大ナルコトヲ認識セシメカメテ事例ヲ我が國及大東亞ニ採リ資源活用ノ態度ノ涵養ト其ノ能力ノ助長トニカムベシ
- 四 觀察、實驗、實習ヲ基礎トシテ生物及生活現象並ニ地殼ノ構成及地學的現象ニ付テ修得セシメ且其ノ理法及之ト人生トノ關聯ヲ明ナラシムベシ
- 五 生物及地學ノ學習ニハ物理及化學ノ知識並ニ研究ヲ十分ニ活用スル必要ノアルコトヲ覺ラシムベシ
- 六 生物ニ在リテハ常ニ生體ノ構造・機能ニ於ケル調和アル統一性ヲ理會セシムベシ
- 七 地學ニ在リテハ地殼ヲ構成スル主要ナル物質ニ付正確ナル知識ヲ與フルト共ニ之ヲ地學的諸現象ト關聯シテ考察推究スルコトノ指導ニ留意スベシ

○外國語科

外國語科ハ外國語ノ理會及發表ノ能力ヲ養ヒ其ノ特質ヲ明ニシ當該外國語ヲ通ジテ直接ニ外國ノ思想、政治、經濟、學術、文化、國民性等ニ關スル正確ナル認識ヲ得シメ廣ク世界情勢ヲ洞察批判スル識見ヲ育成シ國運發展ニ資セシムルヲ以テ要旨トス

- 一 皇國ノ世界史的使命ニ鑑ミ諸外國文化ノ核心ヲ究明シ以テ我が國傳統文化ノ發展ニ寄與スル素地ヲ養フベシ
- 二 歐米ニ於ケル學術ノ動向ニ絶エズ接觸ヲ保チ原文ニ依リ之ヲ迅速的確ニ把握スルハ國運ノ進展ト共ニ益必要ナルヲ以テ此ノ目的ヲ達成スル基礎ヲ固ムベシ
- 三 外國語ヲ驅使シテ皇國ノ精華ヲ海外ニ闡明シ世界新秩序ノ建設ニ貢獻スルニ足ル實力ヲ養フニカムベシ

○選修科

選修科ハ古典及歴史ヲ中心トスル事項又ハ外國語科ニ於テ履修セザル外國語ヲ履修セシメ以テ研究ノ深化ト識見ノ長養トニ資スルヲ以テ要旨トス

○體鍊科

體鍊科ハ體操及武道ヲ通ジ身體ヲ鍛鍊シ精神ヲ鍊磨シテ剛健不撓ノ心身ヲ育成シ國防能力ノ向上ニ力メ献身奉公ノ實踐力ヲ充實シ皇國ノ使命完遂ノ任ニ堪フベキ材幹ヲ鍊成スルヲ以テ要旨トス

- 一 體鍊ノ國家的重要性ヲ自覺シテ日常進ニテ體鍊ニ力メシメ以テ國家ノ要請ニ應ズル心身鍊成ノ全キヲ期スベシ
- 二 心身一體ノ修練ヲ通ジ強靱ナル體力、旺盛ナル精神力ヲ涵養スルト共ニ禮節ヲ尙ビ廉恥ヲ重ンズル氣風ヲ振勵スベシ
- 三 團體行動ニ慣熟セシメ率先躬行沒我協同ノ習慣ヲ確立スルト共ニ指揮統率ノ能力ヲ涵養スベシ
- 四 青年期心身ノ發達ニ留意シ鍛鍊養護ヲ一體トスル不斷ノ修練ニ依リ着實ニ體鍊ノ效果ヲ收ムベシ
- 五 姿勢、態度、躰其ノ他訓練ノ成果ヲ全生活ニ具現セシメ日常ノ習慣ヲラシムベシ

高等學校高等科修練要綱

(昭和十八年三月文部省訓令第五號別冊)

修練ハ高等學校教育ノ方針ニ基キ左記綱領ニ則リ要綱ニ據リテ具體的計畫ヲ立テ之ヲ實施スベシ
本要綱制定ノ趣旨ハ動モスレバ教室、寮舎、運動場等ニ分裂シ易キ學校生活ヲ綜合一貫セシメ心身相即ノ鍛鍊ノ下ニ國家將來ノ指導ノ人材ヲ鍊成セントスルニ在リ
本要綱ニ依ル修練指導ノ要諦ハ教師ノ率先垂範ニ在リ即チ生徒ヲシテ恥ヲ知リ義ニ勇ミ挺身皇事ニ赴ク志ヲ確立セシムルモ亦能ク人ヲ率キルニ足ル徳性才幹ヲ鍊成セシムルモノニ師タル者ノ垂範ニ

俟ツ宜シク師弟同行シテ教學相長ジ致タトシテ倦マザルベシ

- 一 修練ハ學徒ノ本分ヲ盡スフ旨トセシムベシ
學徒ノ本分ハ日夜研鑽ヲ積ミ國恩ニ報ズル道ヲ體得スルニ在リ之ヲ忘レテ放恣ナル生活、空虚ナル自負心等ニ執着センカ修學ノ實地ニ墜ツルニ至ラン須ク既往ニ鑑ミ戒心ヲ新ニセシムルト共ニ凡事ノ敗ルルハ本末ヲ誤リ名分ヲ紊スニ基ク所以ヲ體認セシメ萬端ノ指導ニ謬ナカルベシ
- 二 修練ハ禮節風紀ノ嚴正ヲ期セシムベシ
長幼尊卑ノ序ヲ立テ萬物ヲシテ正シク其ノ所ヲ得シムルモノハ禮ナリ禮ハ即チ治國ノ要ニシテ文教ノ基學徒ニシテ此ノ禮ナクンバ徳器ノ成就得テ期スベカラズ起居節アリ寢食度アリ容儀應待凡テ規矩アルトキ風紀自ラ嚴ニ修練ノ實亦必ズ見ルベキモノアラム宜シク事大小トナク禮法ニ則ラシムベシ
- 三 修練ハ勇躍隨順ノ風ヲ濟サシムベシ
日常ノ研學修業ヨリ勤務諸役ニ至ル迄生徒ノ自奮自發ニ俟チ創意工夫ニ期待スベキモノ極メテ多シト雖モ皇國ノ修練道場タル學校ニ於テ猥ニ未熟ノ私意ヲ恣ニセシムベキニ非ズ欣然誠ニ順ヒ勇躍命ヲ奉ズルハ學道ノ徒ノ生命ナリ此ノ風ヲ振勵シテ日常ノ習性ヲラシムルヤウ力ムベシ
- 四 修練ハ千磨不撓ヲ要領タラシムベシ

薪水馳走ノ勞苦ヲ積ミ、嗔拳熱喝ノ辛酸ヲ重ネズンバ、古來一技一能ニモ達スル者ナシ、況ヤ學問奉公ノ事タル任重クシテ、道遠シ百鍊千磨必死ノ精進ナクンバ、争カ其ノ志ヲ遂グルヲ得ンヤ、須ク困苦ヲ凌ギ、缺乏ニ耐ヘテ、學ヲ磨キ、術ヲ練リ、心ヲ洗ヒ、身ヲ鍛ヘ、倦ムコトナク、撓ムコトナカラシムベシ

五 修練ハ挺身業ヲ荷フ氣魄アラシムベシ

一人國ヲ興シ、一人國ヲ亡ボスト云フ選バレテ、高等學校生徒タル者初ヨリ一校一國ノ榮辱ヲ荷フ責アルヲ覺悟セザルベカラズ、即チ平素自ラ修メ自ラ律スル風アルベキハ固ヨリ荷モ事アラバ、挺身業ニ代リテ責ニ任ジ、慎重自ラ計リテ、果斷獨リ往ク氣魄ナカルベカラズ、宜シク之ガ鼓舞振勵ニ力ムベシ

六 修練ハ友和信愛ノ情ヲ横溢セシムベシ

嚴肅ナル道場ニ家庭ノ情味アラシムルモノハ、學友相信ジ相和シ先後互ニ切磋誘掖スル友誼ナリ故ニ、或ハ虛弱ヲ扶ケ、感溺ヲ救ヒ、或ハ特技ヲ伸バシ、特能ヲ長ジ以テ家庭的ノ精神ノ鍊磨ニ力メシムルト共ニ、更ニ進ンデ報恩感謝ノ情ヲ振勵シ、皇國ノ學徒トシテノ德性風格ノ全キヲ期セシムベシ

七 修練ハ至誠一貫ヲ根基タラシムベシ

智能啓發ノ道ハ多岐ニシテ、德器成就ノ道程亦險阻ナレドモ、負荷ノ重責ヲ果スノ要ハ唯是レ一ノ誠ニ在リ、質實ナル生活剛健ナル志操皆之ヲ源トシ、思索ノ精深識見ノ高邁悉ク之ニ基ク誠ノ力能ク人

ヲ練リ人ヲ結ビ物ヲ成シ事ヲ遂ゲシム此ノ事理ヲ體得セシメ高等學校ヲシテ至誠ノ道場タラシムベシ

一 生活要項

○指導方針

生活指導ノ目標ハ良キ躰ノ完成ニ在リ、即チ修練ノ本旨ニ則リ健全ニシア氣品アル習慣ヲ生活ノ全般ニ確立セシメ、學徒ノ本分ヲ全ウスル基礎ヲ築カシムルニ在リ

一 學行一致文武一體ノ趣旨ヨリ日課、週課、行事等ヲ按配シ起居寢食ヨリ研修、體鍊等ニ至ル

一切脈絡一貫スル指導ヲ爲スベシ

二 聖訓ニ恪遵シテ其ノ實效ヲ日常ニ舉ゲシムルヲ旨トシ尊皇敬神、孝悌節義等我が國教學ノ基本タルベキモノニ付テハ特ニ細事タリトモ實地ニ行フヲ習慣タラシムベシ

二 習慣ノ確立ハ身邊ノ清潔整頓、姿勢容儀ノ整正、敬禮ノ嚴正確實、時間物資ノ尊重等卑近ノ事項ヨリ始ムベシ

四 耐寒耐暑其ノ他ノ鍛鍊行事ヲ其ノ場限ノモノトセズ平素ニ於テ準備シ克ク鍊成ノ效果ヲ舉グルヤウ指導スベシ特ニ入學直後ノ基礎鍛鍊ノ期間ハ此ノ序ヲ追フ精神ヲ徹底シ生活萬端ノ指導ニ遺漏ナキヲ要ス

五 匆忙貧寒ノ裡ニモ潤ヒト裕リアル風格ヲ養ハシムル爲例ヘバ名詩秀歌ヲ朗誦セシムル等風雅ノ道ニモ嗜アラシムベシ

實施要領

一 平日ノ日課ハ左表ニ準ジテ之ヲ定ムベシ但シ季節及學校ノ事情ニ依リ若干ノ變更ヲ妨ゲザルモ睡眠時間ハ八時間、自修時間ハ三時間ヲ下ルヲ得ザルモノトス

時 間	事 項
午前	起床、點呼、朝禮、早朝體操、寮舎ノ清掃
六、〇〇	
六、三〇	朝食、自修
八、〇〇	教授
(九、五〇)	(全校體操)
(一〇、一〇)	(教授)
一二、〇〇	晝食、休憩
〇、五〇	教授
午後	教室、道場、校地等ノ清掃
二、四〇	

三、〇〇	(全校體操)、日課體鍊其ノ他
五、〇〇	入浴、夕食、休憩
六、三〇	自修
七、五〇	休憩
八、一〇	自修
九、三〇	點呼、就床
一〇、〇〇	消燈

- (一) 點呼ハ生徒ノ情況ヲ確實ニ掌握スルヲ目的トシ隨時巡察點檢等ヲ以テ之ヲ補フベシ
- (二) 朝禮ハ指導ノ教官ニ挨拶スルト共ニ今日一日ノ發奮努力ヲ誓ハシムルヲ要旨トスベシ
- (三) 清掃ハ本表ニ定ムルモノノ外學期ノ始終其ノ他必要ト認ムルトキハ全員ヲ以テ大掃除ヲ行ハシムベシ
- (四) 常ニ通風、採光等ニ留意セシメ衣服寢具ノ洗濯、乾燥等ヲ怠ラシメザルヤウ指導スベシ
- (五) 寮室、圖書室等ニ於ケル姿勢ハ特ニ紊レ易キモノナレバ之ヲ匡正ニカメシムベシ
- (六) 自修時間ハ靜肅ヲ旨トシ勉學ニ集中セシムベシ

- (七) 特ニ夜間ニ於テハ喧騒ニ互リ近隣ニ迷惑ヲ及ボス等ノコトナキヤウ注意セシムベシ但シ食後又ハ休憩時等ノ一定時ヲ限り大聲高吟スルガ如キハ之ヲ妨ゲス
- (八) 外出、外泊、歸省等ノ制ヲ定メ之ヲ嚴守セシムベシ
- (九) 門限ハ夕食後ノ自修開始時刻ヲ原則トスベシ但シ日曜日ヲ除キ一週二回以内就床前ノ點呼時トスルヲ妨ゲズ
- (十) 就床及消燈ノ時刻ヲ嚴守シテ睡眠ヲ快カラシムベシ
- (十一) 就床前一日ヲ回想セシメ日記ヲ誌サシムベシ
- 二 日曜日ノ日課ハ生徒ヲシテ浩然ノ氣ヲ養ハシムルヲ要旨トシテ各學校ニ於テ適宜之ヲ定ムベシ
- 三 週課ハ左ニ依リテ之ヲ定ムベシ
 - (一) 一週一回以上早朝洗面後宮城ヲ遙拜シテ神勅、聖訓、御製等ヲ奉誦シ或ハ之ニ講話ヲ加ヘ大御心ノ奉體ニ資セシムベシ
 - (二) 一週一回以上父母恩師等ニ對シ近況ヲ報ゼシムルヤウ指導スベシ
 - (三) 一週一時間以上ヲ以テ全校修練ニ充テ校長訓話、講演、勤勞作業其ノ他學校的行事ヲ行フベシ但シ他ノ行事等ニ依リ全校修練ノ目的ヲ達シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

注 意

- (一) 禮法ハ昭和十六年文部省制定ノ禮法要項ヲ參考トシ各學校ニ於テ制定スベシ
- (二) 教官ハ一週一回以上生徒ト會食スルヤウ力ムベシ
- (三) 小使、給仕等ニ對シテモ老ヲ勞ハリ幼ヲ導ク心持ニテ對スルヤウ修練ノ趣旨ヲ徹底セシムベシ

二 研 修 要 項

○指導方針

- 研修指導ノ目標ハ修練ノ本旨ニ則リ教授トノ一體的關係ニ於テ研學修業ノ全般ニ互リ常ニ實情ニ即シテ指導ヲ加ヘ志操ノ鍊磨、識見ノ長養ヲ圖ルニ在リ
- 一 學科目ノ學習督勵ニ當タリテハ固ヨリ一般讀書ノ指導ニ當タリテモ凡テ基礎的知識ノ體得ヲ眼目トスベシ
 - 二 隨時論文、作品等ヲ作ラシメテ知識ノ綜合的、實踐的活用ニカムルヤウ指導スベシ
 - 三 凡テ研學修業ニハ立志發奮ト創意工夫トノ肝要ナルコトヲ悟ラシメ自發的研究ト同志相勵ム共同的研究トヲ獎勵シ其ノ持續ニカメシムベシ
 - 四 學識ヲ力タラシムル爲一物徹底ノ研究態度ニ習熟セシムルト共ニ視野ヲ廣クシ教養ヲ豊ニシ

テ將來ノ活動ニ誤ナキヲ期セシムベシ

五 實地ノ見聞、具體的體驗等ヲ通ジテ高尚優雅ナル國民的情操ノ涵養ニ力メシムベシ

實施要領

一 修練ノ指導教官ハ學科目ノ擔當教官ト一體トナリ生徒ノ豫習復習等ヲ督勵シ又個人的情況ニ基キテ適切ナル指導ヲ爲ス等研修ノ基礎ヲ確實ナラシムル方途ヲ講ズベシ

二 讀書ノ指導ニ付テハ左ニ依ルベシ

(一) 古典科又ハ人文科ノ古典教材中ヨリ適當ナルモノヲ選ビ讀書會、輪讀會等ヲ催シテ讀書ノ要領ヲ授ケ成ルベク多數ノ生徒ニ正シク味讀セシムル方途ヲ講ズベシ

(二) 専門學ヲ修ムル上ニ必讀ノ書籍、論文等ヲ系統的ニ示シ序ヲ追ウテ讀マシメツツ指導ヲ加フベシ

(三) 教養ニ資スベキ書籍中適當ナルモノヲ示シ成ルベク系統的ニ讀マシムルヤウ勸奨スベシ

(四) 圖書館、寮文庫等ヲ整備充實シ良書ヲ成ルベク多數ノ者ニ讀マシムルヤウ常ニ適切ナル處置ヲ講ズベシ

三 科學精神涵養ノ爲ニ左ニ依ル指導ヲ爲スベシ

(一) 農耕園藝、觀察實驗、動物飼育等ニ付科類、學年、資質等ニ應ジ成ルベク多數ノ生徒ニ之

ヲ實施セシメ長期ニ亘リ持續セシムル方途ヲ講ズベシ

(二) 能フ限り工作室等ヲ整備シ器具、裝置等ハ成ルベク之ヲ自ラ作り自ラ修理セシメテ科學的探究ニ必要ナル創意工夫ノ能力等ヲ涵養スルヤウ指導スベシ

(三) 講演、旅行、見學、研究發表、作品展觀等ノ行事ヲ催シ科學精神ノ涵養ニ資セシムベシ

四 指導の人材ノ鍊成上必要ト認メラル重要問題ニシテ教授上取扱ヒ難キモノニ付テハ隨時特殊講義、講演、研究會等ヲ催シ又ハ適當ナル教官ノ指導ノ下ニ調査研究ヲ爲サシメ識見ノ涵養ヲ圖ラシムベシ

五 文章、言語ニ依リ自己ノ思想乃至所信ヲ的確ニ發表シ得ルヤウ練習ヲ積マシメ古來ノ詩歌等

ニ付テモ之ヲ玩味スルニ止マラズ自ラ創作ヲモ試ミテ風懷ヲ敘ベシムル等常ニ表現能力ノ涵養ニ力メシムベシ

六 藝術品ニシテ優秀ナルモノ又ハ地方的ニ關係深キモノニ付テハ之ニ接スル機會ヲ多カラシメ創作ノ苦心、特徴等ヲモ教ヘテ其ノ氣品高節ニ學バシムベシ

注 意

教科書以外ノ良書ニ付テハ學校ニ於テ讀書指導委員會ヲ作り調査、選定並ニ指導ヲ行フベシ

三 體 鍊 要 項

指導方針

體鍊指導ノ目標ハ修練ノ本旨ニ則リ體鍊科、教練科トノ一體的關係ニ於テ強靱ニシテ不撓ナル心身ヲ鍊成スルニ在リ

一 基礎體力ノ充實ト國防能力ノ増進トヲ主眼トシ之ニ基キテ指導計畫、行事企畫竝ニ實施ノ適正ヲ期スベシ

二 團體的行動ニ慣熟セシメテ沒我協同ノ精神、敢爲邁往ノ氣象ヲ鍊ルト共ニ指揮統率ノ能力ヲ涵養スベシ

三 保健衛生ニ留意シ鍛鍊、養護ヲ一體トシテ心身ヲ鍊成セシムル爲各自ニ夫々適切ナル目標ヲ與ヘテ指導ヲ加フベシ

實施要領

一 修練ニ於テ實施スベキ體鍊種目及區分左ノ如シ

(一) 必修體鍊ノ種目ハ體操、陸上運動、劍道又ハ柔道、行軍、戰場運動、銃劍道、射擊、水泳、雪滑(土地ノ情況ニ依リ選修ト爲スコトヲ得)トシ全員ヲシテ之ヲ履修セシムベシ

(二) 選修體鍊ノ種目ハ前項ノ種目ノ外航空訓練、海洋訓練(撓槽漕等ヲ含ム)、機甲訓練、馬事訓練、相撲、球技(鬪球、蹴球、送球、籠球ノ中適宜)、弓道、氷滑等トシ生徒ノ體位、

個性、希望其ノ他ヲ考量シテ適宜之ヲ履修セシムベシ

二 體鍊ハ常時體鍊及特別體鍊ニ分テ前項ノ各種目ヲ適宜按配シテ之ヲ履修セシムルノ外隨時警防訓練及集團作業ヲ實施スベシ

三 常時體鍊ハ早朝體操、全校體操及日課體鍊トシ左ニ依リ實施スベシ

(一) 早朝體操ハ毎朝起床後在寮ノ全員ヲシテ行ハシムベシ

(二) 全校體操ハ體鍊科教授要綱ニ基キ毎日教授ノ間又ハ終了後ニ於テ全校一齊ニ行ハシムベシ

(三) 日課體鍊ハ教授終了後夕食ニ至ル間ニ於テ之ヲ行フモノトシ必修體鍊ニハ一週二時間以上ヲ充テ選修體鍊ニハ其ノ他ノ時間ヲ以テ適宜之ニ充ツベシ

四 特別體鍊ハ左ニ依リ實施スベシ

(一) 新入學ノ生徒ニ對シテハ學年始ノ三月間ヲ基礎體鍊期間トシ嚴密ナル身體竝ニ體力檢査ノ結果ニ依リ各自ノ體位、個性等ニ即應シテ毎日一時間以上體操、陸上運動等ヲ主トシテ指導ヲ爲スベシ

(二) 酷暑及酷寒ノ季節ニ於テハ適當ノ期間適宜ノ體鍊ヲ實施スベシ

(三) 適當ノ日時ニ於テ各種目ニ付大會其ノ他ノ行事ヲ行ヒ修練ノ成果ヲ發揚セシムベシ

五 警防訓練ハ防空訓練ヲ主トシ適宜關係各方面ト緊密ナル連絡ノ下ニ之ヲ實施シ非常ノ事態ニ

即應シ得ル活動ニ慣熟セシムベシ

六 集團作業ハ國民勤勞報國協力令ニ依リ實施スルモノノ外適宜之ヲ課スベキモ農耕作業ハ力メテ全員ニ必修セシムベシ

七 身體ノ情況ニ依リ生徒ヲ概ネ左ノ三種ニ區分シ夫々適切ナル目標ヲ與ヘテ之ヲ指導シ撓マズ努力鍊磨セシムベシ特ニ丙種ノ者ニ付テハ醫師ノ意見ニ基キ心身ノ情況ニ即應スル個別指導ヲ行フベシ

甲種 身體強健ニシテ相當高度ノ鍛鍊ニ適スル者

乙種 身體中等ニシテ通常ノ鍛鍊ニ適スル者

丙種 身體虛弱ナル者

九 山口高等學校設置授業開始(抄) (大正八年四月十六日文部省令第十三號)

山口縣山口町ニ山口高等學校ヲ設置シ本年九月授業ヲ開始ス

十 高等學校高等科入學資格試驗規程

(大正八年三月文部省令第九號)
(改正 大正十五年七月號)
(昭和十年五月十五號)

第一條 高等學校規程第四十三條ノ高等學校高等科入學資格試驗ヲ受ケントスル者ハ年齡滿十六年

以上ノ男子ニシテ身體健全品行方正且現ニ中學校ニ在學セサル者タルヘシ

第二條 高等學校高等科入學資格試驗ハ文部大臣ノ指定シタル中學校ニ於テ便宜之ヲ行フ

第三條 試驗ハ中學校第四學年マデノ學科目ニ就キ第四學年修了ノ程度ニ依リ之ヲ行フベシ

但シ實業、音樂、作業科及體操ハ之ヲ除ク

第四條 專門學校入學者檢定規程第七條第二項又ハ大正七年文部省令第三號第六號第二項ニ依ル證明書ヲ有スル者ニシテ試驗ヲ出願シタルトキハ當該學科目ノ試驗ヲ免除ス專門學校入學者檢定規

程第八條ニ依リ試驗ヲ免除セラルル者ニ付亦同シ

第五條 中學校ニ於テハ高等學校高等科入學資格試驗ニ合格シタル者ニ合格證書ヲ交付スベシ

第六條 高等學校高等科入學資格試驗ノ問題答案及成績表ハ五年以上保存スベシ

第七條 中學校ニ於テハ本令ノ試驗ニ付試驗手数料ヲ徵收スルコトヲ得

附 則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

十一 文部省直轄學校生徒ノ學校長ノ許可ナクシテ受ケタル他ノ直轄

諸學校入學試驗無効ニ關スル規程 (明治三十八年十月文部省第十八號)

文部省直轄諸學校ノ生徒ニシテ豫メ學校長ノ許可ヲ受ケズ他ノ文部省直轄諸學校ノ入學試驗ヲ受ケ

タルトキハ其ノ入學試験ハ無効トス

十二 高等學校高等科學力檢定規程

(大正十年十一月文部省訓令
改正 昭和十年十一月號)

第一條 高等學校高等科學力檢定試験ハ帝國大學學部又ハ官立大學ヨリ其ノ入學志願者ノ學力檢定
試験施行ノ通告アリタル場合ニ限り高等學校ニ於テ施行ス
試験ハ二月又ハ七月ニ於テ之ヲ施行ス

第二條 試験ハ高等學校高等科學卒業ノ程度ニ依リ之ヲ行フベシ
高等學校高等科ニ入學スル資格ヲ有セザル者ニハ先ツ中學校第四學年迄ノ學科目ニ就キ第四學年
修了ノ程度ニ依ル學力檢定試験ヲ行フベシ但シ實業、音樂、作業科及體操ハ之ヲ除ク

第三條 試験ヲ受ケントスル者ハ受験料金五圓ヲ納ムベシ
既納ノ受験料ハ何等ノ事由アルモ之ヲ還付セズ

第四條 試験ニ合格シタル者ニハ左式ノ證明書ヲ交付スベシ

校印	證明書	族籍
		何年何月生

右ハ當校試験ノ成績ニ依リ高等學校高等科何科ノ卒業ト同等ノ學力アルコトヲ證明ス

年	月	日	某高等學校長位勳	氏	名	印
番	號					

附 則

大學豫科學力檢定規程ハ之ヲ廢止ス

十三 教員檢定ニ關スル規程 (抄) (明治四十一年十一月文部省令第三十二號)

第一條 教員檢定ハ受験者ノ學力、性行、身體ニ就キ之ヲ行フ

第三條 (前略) 無試験檢定ハ隨時之ヲ行フ

(第二項略)

第四條 檢定ヲ受ケントスル者ハ第一號書式(書式略)ノ願書ニ左ノ書類ヲ添ヘ(中略) 無試験檢
定ニ在リテハ地方廳若ハ當該學校ヲ經由シテ文部大臣ニ出願スヘシ

- 一、第二號書式(書式略)ノ履歷書及受験資格ニ關スル學校卒業證書若ハ教員免許狀ノ寫
- 二、第七號書式(書式略)ノ學校醫ノ身體檢查書但シ學校醫ノ設置ナキ地ニ在リテハ醫師法ニ依
ル醫師ノ身體檢查書ヲ以テスルモ妨ゲナシ

教員檢定ニ關スル規程

第一學期 四月一日ヨリ八月二十日迄

第二學期 八月廿一日ヨリ十二月卅一日迄

第三學期 一月一日ヨリ三月卅一日迄

第八條 紀元節、天長節、明治節、一月一日及本校創立記念日（五月十六日）ニハ祝賀ノ式ヲ行フ

第九條 本校所定ノ教授ヲ行ハザル日左ノ如シ

日 曜 日

神武天皇祭 四月三日

夏 季 七月二十一日ヨリ八月二十日迄

秋季皇靈祭 秋分日

神 嘗 祭 十月十七日

新 嘗 祭 十一月二十三日

冬 季 十二月二十五日ヨリ翌年一月五日迄

春 季 二月二十四日ヨリ三月十五日迄

春季皇靈祭 春分日

第三節 入學及在學

第十條 入學ノ期ハ學年始ヨリ三十日以内トス

第十一條 入學志願者ハ入學志願者名票ニ寫眞及入學者査料金五圓ヲ添ヘ差出スベシ既納ノ査料ハ何等ノ事由アルモ之ヲ返還セズ

第十二條 本校ニ入學スルコトヲ得ル者ハ高等學校令第十二條同附則（昭和十八年勅令第三十八號）第三項高等學校規定第三十條及國民學校令等戰時特例施行規則第三條（昭和十九年文部省令第五號）ニ規定セラレタル者タルベシ

第十三條 入學志願者ハ其ノ入學後修業セントスル科ヲ指定シ理科ニアリテハ類ヲ指定スベシ指定スベキ科及類左ノ如シ

文科

理科 甲類（數學及物理ニ重キヲ置クモノ）

乙類（博物ニ重キヲ置クモノ）

文科ニアリテハ入學後履修修スベキ選修科ヲ選定スベシ選定スベキ選修科左ノ如シ

第一選修 （古典及歴史）

第二選修 (外國語科ニ於テ履修セザル外國語)

第十四條 轉科、轉類及選修科ノ變更ハ入學後ハ之ヲ許可サズ

第十五條 入學者ノ選拔ハ本校ニ於ケル筆答試問口頭試問及身體検査ノ結果並ニ入學前ニ在學シタル學校ノ調査書トヲ綜合考査シテ之ヲ決定ス

第十六條 筆答試問ノ學科ハ中學校第四學年修了ノ程度ニ依リ之ヲ行フ

前項ノ學科ハ生徒募集ノ都度之ヲ定ム

第十七條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ指定ノ期日マデニ入學料金參圓ヲ納付シ且保證人ノ保證書(第二號書式)ニ戶籍抄本ヲ添へ本校ニ差出スベシ

正當ノ理由ナクシテ指定期日迄ニ前項ノ手續ヲ爲サザルトキハ入學ノ許可ヲ取消ス

既納ノ入學料ハ何等ノ事由アルモ之ヲ返還セズ

保證人タルベキ者ハ生徒ノ父兄若ハ父兄ニ代リテ其ノ責ニ任ズベキ者トス

第十八條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ本校所定ノ方式ニ從ヒ宣誓スベシ

第十九條 在學ノ儘兵役ニ服セントスル者ハ豫メ本校ニ届出ツベシ

第二十條 在學ノ儘他學校ニ入學ヲ出願セントスル者ハ豫メ本校ノ許可ヲ受クベシ

前項ニヨリ他學校入學ノ許可ヲ得タル者ハ其ノ入學期前ニ於テ第三十六條ニ依ル退學ノ手續ヲ爲

スベシ

第二十一條 本校生徒ニシテ學籍ヲ失ヒタル者其ノ學籍ヲ失ヒタル時ヨリ二年以内ニ再入學ヲ志願スルトキハ詮衡ノ上當該學年又ハ翌學年ノ始ヨリ三十日以内ニ於テ同一學年以下ノ學年ニ限り入

學ヲ許可スルコトアルベシ

第十條第十一條第十七條及第十八條ノ規定ハ前項ノ場合之ヲ適用ス

第二十二條 戶籍ニ異動ヲ生ジタル者ハ戶籍抄本ヲ添へ速ニ届出ツベシ

第四節 修了及卒業

第二十三條 成績ハ教授及修練ニ付之ヲ考査ス

第二十四條 教授及修練成績ハ優、良、可及不可ヲ以テ之ヲ表示ス

第二十五條 教授及修練ノ成績ヲ分チテ學期成績及學年成績トス

教授ノ學期成績ハ其ノ學期ノ試験成績及平常成績ニ依リ之ヲ定ム

修練ノ學期成績ハ其ノ學期ノ平常成績ニ依リ之ヲ定ム

學年成績ハ各學期成績ニ依リ之ヲ定ム

第二十六條 試験ヲ分チテ定期試験及臨時試験トス

第二十七條 定期試験ハ各學期末ニ於テ之ヲ行フヲ原則トス

臨時試験ハ學科ノ進度ニ應ジテ臨時之ヲ行フコトアルベシ

第二十八條 試験ニ缺席シタル者ニシテ缺席ノ事由正當ナル場合教授成績ハ當該學期ニ於ケル平常成績ヲ參酌シテ之ヲ定ム

第二十九條 缺席、休學及停學等ノ爲平常成績ヲ考査スルコト能ハザルトキハ臨機ノ措置ヲナスコトアルベシ

第三十條 教授及修練共ニ以上ノ成績ヲ得タル者ハ修了又ハ卒業セシム

第三十一條 本校所定ノ課程ヲ履修シ第三十條ニ依リ卒業シタル者ニハ卒業證書(第一號書式)ヲ授與ス

第五節 休學及退學

第三十二條 疾病又ハ事故ニヨリ引續キ三箇月以上修學スルコト能ハザル見込ノ者ニハ當該學年間

休學ヲ許可スルコトアルベシ

但シ特別ノ詮議ニヨリ翌學年間引續キ休學ヲ許可スルコトアルベシ

第三十三條 休學セントスル者ハ事由ヲ具シ保證人連署ヲ以テ願出ヅベシ

但シ疾病ニ因ルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添付スベシ

第三十四條 休學シタル者ハ翌學年ノ始ヨリ原級ニ復シテ修學スベキモノトス

第三十五條 生徒兵役ニ服スル爲授業ニ出席スルコト能ハザルトキハ其ノ期間中休學トス

服役滿期又召集解除ノ際ハ直ニ原級ニ復シテ修學スベキモノトス

第三十六條 疾病又ハ事故ニ因リ退學セントスル者ハ其ノ事由ヲ詳記シ保證人連署ヲ以テ願出ヅベシ

但シ疾病ニ因ルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添付スベシ

第三十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ退學セシム

一、教授又ハ修練ノ成績著シク不良ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者

二、引續キ一箇年以上缺席シタル者

三、正當ノ理由ナクシテ引續キ一箇月以上缺席シタル者

四、出席常ナラザル者

五、原級ニ止ルコト二回ニ及ブ者但シ第三十五條又ハ第三十二條但書ニヨルモノハ此ノ限りニアラズ

六、授業料又ハ寄宿料ノ滯納十五日ニ及ブ者

第六節 懲 戒

第三十八條 總テ生徒ノ本分ヲ缺ク者ハ之ヲ懲戒ス懲戒ハ之ヲ分チテ戒飭、停學、放校ノ三種トス

第七節 授 業 料

第三十九條 授業料ハ一學年金百圓トス

第四十條 授業料ハ左ノ二期ニ之ヲ分納セシム

期 別	金 額	納 期
第一期	金五拾圓	四月一日ヨリ 四月十日マデ
第二期	金五拾圓	十月一日ヨリ 十月十日マデ

前項納期以後ニ入學ヲ許可シタル者ハ入學ノ許可ヲ得タル日ヨリ七日以内ニ當該期ノ授業料ヲ納付スベシ

陸海軍徴收見込ノモノニ對スル其ノ期ノ授業料ハ豫メ月割分納ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十一條 授業料ハ缺席停學等ノ爲ニ之ヲ免除セズ

第四十二條 學年ノ中途ニ於テ休學シタル者ノ授業料ハ次期以降ノ分納額ヲ徴收セズ但シ第三十五

條ニ依リ休學スル者ニシテ第四十條第三項ニ該當スルトキ又ハ其ノ休學ノ日納期最終日前ニ屬スルトキハ次月分ヨリ納期最終日後ニ屬スルトキハ次期分ヨリ徴收セズ

第四十三條 第四十條第三項但書及前條ノ場合ニ於ケル月割額ハ金八圓五拾錢トス

第四十四條 既納ノ授業料ハ何等ノ事由アルモ之ヲ返還セズ

第八節 服 制

第四十五條 生徒ハ本校所定ノ服裝ヲナスベシ

但シ制帽及靴ノ外前項ノ適用ヲ猶豫スルコトアルベシ

第九節 鴻 南 寮

第四十六條 生徒ハ總テ鴻南寮ニ入ルベキモノトス

但シ學校長ヨリ外泊ヲ命ゼラレタル者ハコノ限りニアラズ

第四十七條 寄宿料ハ一學年金貳拾四圓トス

第四十八條 寄宿料ハ左ノ二期ニ之ヲ分納セシム

第一期 金拾貳圓

第二期 金拾貳圓

寄宿料ノ納期ハ授業料ノ納期ニ依ル

陸海軍徴集見込ノ者ニ對スル其ノ期ノ寄宿料ハ豫メ月割分納ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十九條 寄宿料納期後ニ入寮シタル者ノ寄宿料ハ其ノ月分ヨリ納期前ニ退寮シタル者又ハ前條

第三項ニ該當シ徴集ノ爲退寮シタル者ノ寄宿料ハ其月分迄之ヲ徴收ス

第五十條 第四十八條第三項及前條ノ場合ニ於ケル寄宿料ノ月割額ハ金貳圓トス

第五十一條 既納ノ寄宿料ハ何等ノ事由アルモ之ヲ返還セズ

第十節 報國團及報國隊

第五十二條 本校職員生徒ヲ以テ山口高等學校鴻南報國團ヲ組織ス

第五十三條 山口高等學校鴻南報國團ノ規則ハ別ニ之ヲ定ム

第五十四條 山口高等學校鴻南報國團ハ山口高等學校報國隊ヲ編成ス

第五十五條 山口高等學校鴻南報國隊ノ規則ハ別ニ之ヲ定ム

第十一節 圖書及機械器具

第五十六條 本校所屬ノ圖書ハ特別ノ規定ニ依ルモノノ外ハ總テ之ヲ書庫ニ藏置ス

第五十七條 書庫ニ於テハ他ノ委託ニ係ル圖書ヲ保管スルコトアルベシ

第五十八條 本校所屬ノ圖書ハ圖書課員ノ外之ヲ出納スルコトヲ得ズ

第五十九條 圖書ヲ閱覽セシムル爲圖書閱覽室ヲ設ク

第六十條 圖書ヲ閱覽スルコトヲ得ル者ハ職員生徒及特ニ學校長ノ許可ヲ得タル者ニ限ル

第六十一條 圖書ノ閱覽、借受等ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第六十二條 本校所屬ノ機械器具、標本模型、藥品材料等ハ各所屬ノ教室ニ之ヲ藏置ス

第六十三條 生徒ハ當該學科擔任教官ノ許可ヲ得テ實習ノ爲機械、器具、標本、模型、藥品、材料

等ヲ使用スルコトヲ得

第六十四條 圖書及器械ヲ粉失毀損又ハ汚染シタルトキハ之ヲ辨償セシムルコトアルベシ

附 則

本學則ハ昭和十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十九年度ニ於テハ第五條ノ規定ニ拘ハラズ第三學年及第二學年ノ學級ハ仍從前ノ規定ニ依ル

昭和十九年三月三十一日以前ノ入學ニ係ル者ノ授業料ハ年額金八拾圓トシ第三學年ノ生徒ニ在リ

テハ特ニ年額金四拾圓トス但シ月割徴收ノ要アル場合ニ於テハ其ノ月割額ハ金七圓トス

第一號書式

卒業證書

府(縣)

氏

年月日生名

校印

右本校所定ノ文(理)科ノ課程ヲ修メ其ノ業ヲ卒ヘタリ仍テ之ヲ證ス

年月日

山口高等學校長 位勳學位爵 氏

名

職印

番號

第二號書式

八錢
收入印紙

保證書

本籍

現住所

氏

年月日生名

右者今般御校入學ノ許可ヲ得候ニ付テハ在學中校則等ヲ遵守可爲致ハ勿論學籍ヲ脱シ候後ト雖在學中ニ生シタル一切ノ義務ハ必履行可爲致萬一違背致候節ハ拙者ニ於テ一切之ヲ引受可申仍テ保證書如件

昭和 年 月 日

本籍

現住所

職業

生徒トノ關係

保證人

明治 年 月 日生

○校訓

本校生徒タル者ハ謹ミテ聖旨ヲ奉戴シ左ノ五項ヲ服膺シ須ク其ノ實ヲ舉グルニ努ムベシ

一、國體ノ本義ニ徹シ世界ニ於ケル皇國ノ使命ヲ體得シテ至誠盡忠克ク國家ノ重キニ任ジ天業ヲ翼賛シ奉ラムコトヲ期スベシ

一、敬神崇祖ノ念ニ篤ク氣節ヲ尙ビ廉恥ヲ重ンジ剛毅果斷ニシテ高邁潤達ノ氣宇ニ富マムコトヲ期スベシ

一、修文練武心身一體ノ鍛鍊ヲ重ンジ體質剛健ノ氣風ヲ振勵シ風紀禮節ノ嚴正ナラムコトヲ期スベシ

一、稽古照今學行一致ノ學風ヲ振起シ思索ヲ精ニシ識見ヲ長ジテ文化創造ノ根源力ニ培ハムコトヲ期スベシ

一、防長教學ノ道統ヲ繼承シ先賢尊皇ノ遺烈ヲ體認シ率先挺身山高誓ツテ神國ノ幹タラムコトヲ期スベシ

○生徒禮法

本校生徒ノ禮法ハ一般ニ文部省制定「禮法要項」ニ準據スルモノトスルモ特ニ左記「生徒禮法」ニ據ルベシ

第一、校旗ニ關スル禮法

一、校旗ノ敬禮ハ右手ヲ旗竿ニ沿ヒテ眼ノ高サニ上テ旗鏡ヲ右股ヨリ離スコトナク右手ヲ充分前ニ伸シ旗ヲ垂ル旗手ハ右ノ操作ヲ終リタル後直ニ頭ヲ向ケテ敬禮スベキモノニ注目ス

二、校旗ノ保持法ハ旗鏡ヲ右股ニ當テ右肘ヲ後ニシソノ拳ヲ肩ノ高サニシ旗頭ヲ僅カニ前方ニ傾ケシム

三、校旗ニ行遇ヒ又ハソノ傍ヲ通過スルトキハ停止シテ敬禮ヲ行フベシ

第二、屋内ニ於ケル禮法

一、教官、教室ニ臨（退）場ノ場合ハ學級幹事ハ「氣ヲ付ケ」「敬禮」及「着席」ヲ命ズベシ
食堂等ニ於ケル敬禮ハ右ニ準ズ

- 二、廊下ニ於テハ教官ニ對シ停止、舉手ノ敬禮ヲ行フベシ
- 三、講堂ノ出入ニ際シテハ入口ニ於テ敬禮スベシ
講堂内ニ於ケル舉措ハ須ク嚴肅ナルベシ
- 四、教官室等ニ入ラントスルトキハ室外ニテ叩扉シ入室ノ後敬禮シ、用件アル教官ノ許ニ至リ更ニ敬禮スベシ、退室ノ時亦之ニ準ズ

第三、屋外ニ於ケル禮法

- 一、部隊ノ敬禮ハ學校教練ノ規定ニヨルベシ
- 二、教官ニ對シテハ停止舉手ノ敬禮ヲ行フベシ
- 三、乘馬、乘車等ノ場合ハ教官ニ對シ適宜ノ速度ノ儘前項ノ敬禮ヲ行フベシ後方ヨリ教官ノ傍ヲ通過スル場合ハ「失禮シマス」ト挨拶スルモノトス
- 四、街頭ニ於テハ左側通行ヲ遵守スルト共ニ一般通行ノ妨ゲトナラザルヤウ注意スベシ

第四、其ノ他ノ禮法及心得

- 一、生徒ハ服裝ヲ整ヘ容儀ヲ正シクスベシ

- 二、教官ニ指名セラレタルトキハ姿勢ヲ正シテ應答スベシ
- 三、教官ニ對シテハ言語ヲ慎ムベシ
- 四、スベテ訪問ニ際シテハ禮ヲ失セザル様注意スベシ
- 五、教官以外ノ職員ニ對シテモ禮ヲ失フベカラズ
- 六、報國團各班ノ修練中教官臨場セラルトキハ差支ヘナキ限り敬禮ヲ行フベシ
- 七、來賓ニ對シテハ教官ニ準ジ敬禮スベシ
- 八、生徒ハ相互ニ敬禮ヲ行フモノトス指導的地位ニ立ツモノニ對シテハ特ニ禮ヲ重ンズベシ

○細則

第一 生徒心得

- 第一條 「生徒心得大綱」ノ趣旨ヲ服膺シ生徒タルノ本分ヲ完ウセンコトヲ期スベシ
- 第二條 本校所定ノ「生徒禮法」ヲ遵守スベシ
- 第三條 風紀ヲ紊シ學業ノ妨ゲトナル虞アル場所ニ出入スベカラズ
- 第四條 禁酒及禁煙ヲ嚴守スベシ
- 第五條 頭髮ハ丸刈トスベシ
- 第六條 達示告示等ノ揭示ニ常ニ注意スベシ
- 第七條 本校所屬ノ建物又ハ器物ハ之ヲ大切ニスベシ
- 第八條 防空及火災豫防ニ關シテハ「山口高等學校報國隊防護團規程」ニヨリ行動スベシ

第二 學級主任

- 第一條 各學級ニ學級主任一名ヲ置ク

第二條 學級主任ハ學級ノ教授及修練ニ留意シ保證人ト連絡シソノ鍊成ニ當ルモノトス

第三 指導教官

- 第一條 本校教育ノ主旨ヲ徹底セシムル爲指導教官ヲ置ク
- 第二條 指導教官ハ學級主任ト相俟ツテ一般教官及保證人ト連絡ヲ保チ所屬生徒ヲシテソノ本分ヲ完ウセシムルモノトス
- 第三條 指導教官ハ生徒ヨリ差出ス總テノ願届書等ヲ豫メ檢閲スルモノトス
- 第四條 各指導教官所屬ノ生徒數ハ二十名内外トス

第四 學級幹事

- 第一條 各學級ニ學級幹事正副各一名ヲ置ク
- 第二條 學級幹事ハ當該學級生徒中ヨリ學校長之ヲ命ズ
- 第三條 學級幹事ハ學級主任指導下ニ學級生徒ヲ率テ校風ノ發揚風尚ノ刷新ニ努ムベシ
- 第四條 學級幹事ノ任期ハ一學年トス

第五 保證人

第一條 保證人タルベキ者ハ生徒ノ父兄又ハ父兄ニ代リテ其ノ責ニ任ズベキ者トス

第二條 保證人ハ生徒ヲシテ能ク校則ヲ遵守セシメ且其ノ身上ニ關スル一切ノ責務ヲ有スルモノトス

第三條 保證人ニシテ本校ニ於テ其ノ資格ヲ缺クル所アリト認ムルトキハ之ヲ變更セシムルコトアルベシ

第四條 保證人死亡又ハ事故ニヨリ其ノ資格ヲ失ヒタルトキハ更ニ保證人ヲ定メ保證書ヲ差出スベシ

第五條 保證人ニシテ氏名又ハ住所ヲ變更シタルトキハ速カニ届ケ出ヅベシ
但シ本籍身分異動ノ場合ハ市區町村長ノ證明書ヲ添付スベシ

第六 授 業

第一條 授業ハ昭和十八年三月文部省訓令第四號ニ依ル高等學校高等科教授要綱及修練要綱ニ基キ之ヲ行フ

第二條 每週授業ノ日課ハ學年ノ始ニ之ヲ定ム
但シ臨時ニ之ガ變更ヲ行フコトヲ得

第三條 一教授時ヲ五十分トス

但シ場合ニヨリテハ二教授時以上連續シテ授業スルコトヲ得

第四條 授業ノ終始ハ號鐘ヲ以テ之ヲ報ズ

第五條 生徒ハ授業始ノ號鐘ニヨリ所定ノ位置ニ着キ教官ノ入場ヲ待ツベシ

第六條 生徒ハ授業ノ始及終ニ於テ學級幹事ノ號令ニヨリ教官ニ對シ敬禮スベシ

第七 缺席、缺課、遲刻及忌引

第一條 缺席缺課又ハ遲刻シタルトキハ出席ノ當日所定ノ届出用紙ニ其ノ事由ヲ明記シ指導教官ノ承認ヲ得テ生活課ニ差出スベシ

疾病ニヨル連續缺席六日以上ニ互ルトキハ一週間以内ニ醫師ノ診斷書ヲ添付シテ届出ヅベシ

授業ヲ行ハザル日ノ前後ニ互ル缺席ハ連續缺席ト看做ス

期日ニ遅レタルトキハ無届ト看做ス

第二條 四大節(一月一日ヲ除ク)其他式日行事ニ缺席又ハ缺課シタル者ハ病氣ニ因ルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ事故ニヨルトキハ其ノ事由ヲ詳記シテ生活課ニ差出スベシ

第三條 無届ノ回数十回ヲ超エタル者ハ修練成績ヲ考查セズ

第四條 父母近親ノ喪ニ丁リ缺席スルトキハ其ノ死亡ノ當日ヨリ左ノ期間ハ缺席ノ取扱ヲ爲サズコノ場合ニ於テハ屆書ニ死亡者ノ住所氏名自己トノ續柄及死亡ノ月日ヲ記入シ生活課ニ差出スベシ

- 一、實養父母ハ七日以内
 - 二、會祖父母祖父母兄弟姉妹ハ三日以内
 - 三、伯叔父母ハ一日
- 學校ヨリ郷里等ヘノ往復日數ハ別ニ算定ス

第八 外泊、歸省及旅行

第一條 學則第四十六條但書ニヨリ外泊ヲ命ゼラレタルトキハ直ニ宿所屆ヲ生活課ニ差出スベシ轉宿シタル場合亦同シ

第二條 生徒歸省又ハ旅行ヲナサントスルトキハ其ノ事由及旅行先ヲ明記シ學校長ニ願出ツベシ

第三條 生徒ノ外泊先不適當ナリト認ムルトキハ轉宿ヲ命ズルコトアルベシ

第九 服 制

第一條 生徒登校ノ際ハ必ず制服ヲ着用スベシ

但シ當分ノ間制服ノ新調ハ力メテ之ヲ避ケ現在ノ所持品ヲ以テ代用スベシ

第二條 己ムヲ得ザル事故ニヨリ和服ヲ着用セントスル場合ハ生活課ヨリ和服用許可證ヲ受クベシ

第三條 生徒外出ノ際ハナルベク制服ヲ着用スベシ和服ノ場合ニ必ず袴及制帽ヲ着用スベシ

第四條 服制左ノ如シ

一、制 帽

制 式 丸形又ハ戰帽形

地 色 國防色

前 章 柏三葉ニ山高ノ二字ヲ配ス

横 線 白三條

二、制 服

制 式 國民服乙號型又ハ之ニ準ズルモノ

地 色 國防色

三、靴

制 式 編上ゲ靴又ハ短靴

- 品質 黒革又ハ黒ズツク
- 四、脚絆
- 制式 卷脚絆
- 地色 國防色
- 第五條 外套若ハマントハ平素之ヲ着用スルコトヲ得ズ但シ許可アリタル場合ハコノ限りニアラズ

第十 鴻南寮

- 第一條 本校寄宿舎ハ之ヲ鴻南寮ト稱ス
- 第二條 鴻南寮ハ之ヲ三寮ニ分チ各寮ハ之ヲ四班ニ分ツ
- 第三條 鴻南寮ハ本校生徒ノ鍊成道場ニシテ學徒修練ノ本旨ニ則リ行住坐臥健全ニシテ氣品アル習慣ヲ馴致シ學行一致文武一體以テ國家ノ重責ニ任ズベキ指導的才幹ヲ育成スルヲ以テ目的トス
- 第四條 本校生徒ハ總テ鴻南寮ニ入ルベキモノトス但シ學校長ヨリ外泊ヲ命ジタル者ハコノ限りニアラズ
- 第五條 鴻南寮ハ學則第九條ニ據ル本校所定ノ教授ヲ行ハザル夏季冬季及春季ニ於テハ之ヲ閉鎖ス

ルコトアルベシ

- 第六條 寮生ノ修練ハ學校長統率ノ下ニ全教官之ヲ指導ス
- 第七條 寮務ノ處理ハ修練部長、生活課長及寮務主任之ニ當リ修練部長ハ寮務ヲ總理シ生活課長ハ修練部長ノ指揮ヲ受ケ寮務ニ從ヒ寮務主任ハ生活課長ノ下ニ事務ヲ行フ
- 第八條 修練ノ實効ヲ擧グル爲總務部、生活部、研修部及體鍊部ノ四部ヲ設ク
- 第九條 各部ニ委員長一名及委員若干名ヲ置ク
- 委員長及委員ハ學校長之ヲ任免ス
- 第十條 各寮ニ寮長一名副寮長一名ヲ置キ各班ニ班長一名ヲ置ク
- 寮長、副寮長及班長ハ學校長之ヲ任免ス
- 第十一條 修練ノ徹底相互ノ懇親ヲ圖ル爲常會及水曜會ヲ開催ス
- 第十二條 日課時限ハ學校長之ヲ定ム
- 第十三條 每週月曜日ヲ報恩早起日トス
- 第十四條 每週土曜日ヲ反省日トス
- 第十五條 毎月一回誕生會ヲ開催ス
- 第十六條 寮生ニシテ旅行若ハ臨時寮外ニ宿泊セントスル者ハ學校長ノ許可ヲ受クベシ

- 第十七條 寄宿料ハ一學年金貳拾四圓トシ之ヲ左ノ二期ニ分納スルモノトス
 - 第一期 金拾貳圓
 - 第二期 金拾貳圓
- 第十八條 修練費ハ一學年金拾參圓トシ之ヲ左ノ二期ニ分納スルモノトス
 - 第一期 金七圓
 - 第二期 金六圓
- 第十九條 寄宿料及修練費ノ納付ハ授業料ニ準ジ其納期モ亦之ニ從フ既納ノ寄宿料及修練費ハ何等ノ事由アルモ之ヲ返還セズ
- 第二十條 食費ハ一日七拾錢トシ毎月之ヲ前納スルモノトス
- 第二十一條 鴻南寮ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル
- 第二十二條 修練費及食事ニ關スル現金ノ出納ハ寮務主任之ニ當ルモノトス
- 第二十三條 寮生ノ福祉向上寮施設ノ擴充ヲ圖ル爲基本金ヲ積立ツルモノトス
- 第二十四條 基本金ハ之ヲ生徒主事名義ヲ以テ堅實ナル銀行ニ預金スルモノトス
- 第二十五條 防空其他ノ非常措置ニ關シテハ「山口高等學校報國隊防護團規程」ニ據ルモノトス
- 第二十六條 寮ノ建物施設器具資材等ヲ損傷若ハ紛失シタルトキハ之ヲ辨償セシムルコトアルベシ

第十一 圖書閱覽

- 第一條 圖書閱覽室ハ授業ヲ行ハザル日ヲ除キ毎日之ヲ開ク但シ臨時ニ變更スルコトアルベシ
- 第二條 圖書閱覽室開閉ノ時限ハ別ニ之ヲ定ム
- 第三條 職員ノ借用シ得ル圖書ノ冊數ハ隨時之ヲ定ム
- 第四條 職員圖書ヲ借用セントスルキハ所定ノ借覽證ヲ圖書課ニ差出スベキモノトス
- 第五條 職員ノ借用シタル圖書ハ毎年一回（二月末）之ヲ返納スルモノトス
- 第六條 生徒圖書ヲ閱覽セントスルキハ閱覽證ヲ圖書課ニ差出スベシ閱覽終レバ直ニ返納スベシ
- 第七條 生徒ハ學級主任又ハ指導教官ノ承認ヲ得テ一定冊數ノ圖書ヲ借出スコトヲ得
- 第八條 生徒ノ借出期間ハ三日トス但シ夏季冬季及春季中ノ借出期間ハ別ニ之ヲ定ム
- 第九條 圖書ノ轉貸ハ之ヲ嚴禁ス
- 第十條 閱覽者ハ左ノ各號ヲ嚴守スベシ
 - 一、音讀、談話等スベテ他人ノ妨害トナルベキ行爲アルベカラズ
 - 二、帽子ヲ着用スベカラズ
 - 三、卓子、腰掛、備付品等ノ位置ヲ變更スベカラズ

四、書籍文房具以外ノ物品ヲ携ヘ入ルベカラズ

第十一條 前條ノ規定ニ違背シ其ノ他不都合ノ行爲アリタル者ハ退去セシムルコトアルベシ

第十二條 圖書ヲ汚損又ハ紛失シタル場合ハ之ヲ辨償セシム

第十二 集會、揭示及印刷物

第一條 生徒集會ヲナサントスルトキハ所定ノ願出用紙ニ所要事項ヲ記入シ生活課ニ差出スベシ

第二條 生徒ハ學校長ノ許可ナクシテ校内ニ團體ヲ組織スルコトヲ得ズ

第三條 生徒ハ學校長ノ許可ナクシテ校外ノ團體ニ加入シ又ハソノ會合ニ出席スルコトヲ得ズ

第四條 生徒揭示ヲナサントスルトキハ關係教官ノ承認ヲ經テ修練部長ノ許可ヲ受クベシ

揭示ハ所定ノ場所ニ於テ之ヲナスベシ

第五條 生徒印刷物ヲ作製、頒布セントスルトキハソノ目的、印刷部數、頒布先及責任者ノ氏名ヲ

明記シタル願書ニ原稿ヲ添ヘ關係教官及修練部長ノ檢閲ヲ受クベシ

第十三 試合及大會

第一條 生徒ハ授業ヲ缺キテ校外ノ諸大會、對校試合等ニ參加スルコトヲ得ズ

第二條 生徒校外ノ諸大會、對校試合等ニ參加セントスルトキハ所定ノ願出用紙ニ所要ノ事項ヲ記

入シ體鍊課ニ差出スベシ

第三條 校外ノ諸大會、對校試合等ニ參加スルモノハ體力章檢定初級以上ノ資格者タルヲ要ス

第四條 原級ニ止マリタル生徒ハ當該學年間校外ノ大會、對校試合等ニ參加スルコトヲ得ズ

山口高等學校鴻南報團規則

第一章 總 則

- 第一條 山口高等學校鴻南報團ハ團長ヲ中心トシテ團員一體トナリ皇國ノ道ニ則リ師弟同行修文練武以テ盡忠報國ノ精神ニ徹センコトヲ期ス
- 第二條 本團ハ山口高等學校職員及生徒ヲ以テ組織ス
- 第三條 本團ニ左ノ四部ヲ置ク
總務部 生活部 研修部 體鍊部
- 第四條 總務部ハ本團ノ事業ヲ企畫シ、團誌ノ發行、修練大會ノ開催及學徒通年勤勞動員ニ關スル事務ノ處理ニ當ルモノトス
總務部ニ左ノ二班ヲ置ク
總務班 動員班
- 第五條 生活部ハ修練ノ本旨ニ則リ團員ノ健全ニシテ氣品アル生活ノ確立ヲ期スルモノトス
生活部ニ左ノ二班ヲ置ク

生活班 厚生班

- 第六條 研修部ハ修練ノ本旨ニ則リ團員ノ學業ノ研鑽、志操ノ鍊磨及識見ノ長養ヲ圖ルモノトス
研修部ニ左ノ六班ヲ置ク
古典班 藝能班 郷土班 數物班 化學班 博物班
- 第七條 體鍊部ハ修練ノ本旨ニ則リ團員ノ強靱ニシテ不撓ナル心身ノ鍊成ニカムルモノトス
體鍊部ニ左ノ十六班ヲ置ク
體操班 陸上運動班 劍道班 柔道班 戰場運動班 銃劍道班
射擊班 海洋班 航空班 機甲班 馬事班 相撲班 蹴球班
籠球班 弓道班 農耕班
- 第八條 體鍊ヲ分ツテ級別體鍊及班別體鍊トス
- 第九條 生徒團員ハ體鍊部ノ孰レカノ班ニ屬スベキモノトス
但シ要養護者ハ生活部厚生班ニ屬セシム

第二章 役員及役員會

- 第十條 本團ニ左ノ役員ヲ置ク

團長 一名 學校長之ニ當ル

但シ團長ニ於テ必要アリト認メタル場合副團長一名ヲ置クコトヲ得

部長 各一名

但シ團長ニ於テ必要アリト認メタル場合副部長一名ヲ置クコトヲ得

理事 若干名

但シ内二名ヲ常務理事トス

班長 各班一名

但シ團長ニ於テ必要ト認ムル班ニ副班長一名ヲ置クコトヲ得

委員 若干名

部長、副部長、理事、班長、副班長及委員ハ職員團員中ヨリ團長之ヲ任免ス

幹事

總務部幹事 若干名

部 幹事 正副各一名

班 幹事 正副各一名

學級幹事 正副各一名

幹事ハ生徒團員中ヨリ毎年四月及十月團長之ヲ任免ス

第十一條 本團役員ノ任務左ノ如シ

一、團長ハ本團ヲ統率ス

一、副團長ハ團長ヲ輔佐シテ團務ヲ掌理シ團長事故アルトキハ之ヲ代理ス

一、總務部長ハ團長及副團長ヲ輔佐シ部務ヲ掌理ス

一、生活、研修、體鍊各部長ハ各擔任部務ヲ掌理シ副部長ハ部長ヲ輔佐ス

一、理事ハ團務ニ參畫ス

一、班長ハ部長ヲ輔佐シ班務ヲ掌理シ副班長ハ班長ヲ輔佐ス

一、委員ハ部長、班長ヲ輔佐シ班務ニ參與ス

一、總務部幹事ハ總務部長ノ指導ヲ受ケテ部務ニ從事ス

一、部幹事ハ部長ノ指導ヲ受ケテ部務ニ從事ス

一、班幹事ハ班長ノ指導ヲ受ケテ班務ニ從事ス

一、學級幹事ハ學級主任ノ指導ヲ受ケテ學級ト報國團トノ連絡ニ當ル

第十二條 團長ハ諮問ノ爲理事會其他各種ノ役員會ヲ開ク

理事會ハ部長、副部長及理事ヲ以テ構成ス

第三章 會計

- 第十三條 本團ノ經費ハ團員ノ團費、入團金及其ノ他ノ收入ヲ以テ支辨ス
- 第十四條 團員ハ團費トシテ一學年金拾壹圓ヲ第一期授業料ト同時ニ納付スルモノトス
但シ職員團員ノ團費ハ適宜之ヲ納付スルモノトス
- 第十五條 生徒團員ハ入團金トシテ金七圓ヲ第一期授業料ト同時ニ納付スルモノトス
- 第十六條 本團ノ豫算ハ總務部ニ於テ毎年一月下旬之ヲ査定シ團長之ヲ決定ス
- 第十七條 各年度決算書ハ次年度初メニ總務部ニ於テ之ヲ作成シ團長ニ提出スルモノトス
- 第十八條 本團ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル
- 第十九條 歲計剩餘金ハ次年度豫算ニ繰入ル、モノトス
- 第二十條 基本金ハ團長ノ認可ヲ經ルニアラザレバ之ヲ使用スルコトヲ得ズ
- 第二十一條 生活部ノ事業中、學用品賣店及生徒食堂ノ會計ハ之ヲ別途會計トス
前項ニ關スル細則ハ別ニ之ヲ定ム

山口高等學校報國隊規程

第一章 總則

- 第一條 本報國隊ハ山口高等學校報國隊ト稱ス
- 第二條 本報國隊ハ山口高等學校鴻南報國團々員タル職員及生徒ヲ以テ組織ス
- 第三條 本報國隊ノ目的ハ隊長統率ノ下ニ學徒負荷ノ大任ヲ自覺シ盡忠報國ノ至誠ニ徹シ隊ノ總力ヲ結集シテ國家緊急ノ要務ニ服スルニアリ
- 第四條 本報國隊ハ前條ノ目的ヲ達成スル爲ニ左ノ責務ヲ遂行ス
 - 一、統制規律アル心身ノ鍛鍊ヲ行ヒ有事即應ノ體制ヲ整フルコト
 - 二、非常ニ際シテハ山口高等學校ノ防衛ニ當ルコト
 - 三、國家的要請ニ基キ適時出動シテ各種ノ要務ニ服スルコト

第二章 編成及任務

- 第五條 本報國隊長ハ報國團長之ニ當ル

第六條 本報國隊ノ組織ハ本部本隊及特別警備隊トス

第七條 本部ノ組織及任務左ノ如シ

- 一、本部ニ本部長、本部附、副官部、給養部、衛生部及通信部ヲ置ク
- 二、本部長ハ本部ノ業務ヲ統理シ隊長事故アルトキハ之ニ代ル
- 三、本部附ハ本部長ヲ輔佐ス

四、副官部

- (一) 副官部ニ副官及副官部附ヲ置ク
- (二) 副官ハ訓練、動員、防護、警備、人事、兵器、器具、施設、給養、衛生、内務等諸般ノ業務ヲ企畫統制ス
- (三) 副官ハ輕易ノ事項ニシテ恒例ナルモノハ自ラ之ヲ處理シ適宜報國隊長ニ之ヲ報告スルモノトス
- (四) 副官日常ノ業務左ノ如シ
- (イ) 命令諸達通報報告其他文書ノ起案發送受領及傳達ヲ掌ル
- (ロ) 報國隊ノ歴史ヲ起草ス
- (ハ) 報國隊印刷ニ關スル業務ヲ掌ル

(ニ) 隊外トノ連絡交渉ニ任ズ

(五) 副官部附ハ副官ノ命ヲ承ケ分擔ノ業務ニ服ス

五、給養部

(一) 給養部ニ部長及給養部附ヲ置ク

(二) 部長ハ給養ニ關スル業務ノ企畫ニ參與シ之ヲ實施ヲ掌ル

(三) 休養部附ハ部長ノ命ヲ承ケ分擔ノ業務ニ服ス

六、衛生部

(一) 衛生部ニ部長及衛生部附ヲ置ク

(二) 部長ハ衛生ニ關スル業務ノ企畫ニ參與シ之ヲ實施ヲ掌ル

(三) 衛生部附ハ部長ノ命ヲ承ケ分擔ノ業務ニ服ス

七、通信部

(一) 通信部ニ部長及通信部附ヲ置ク

(二) 部長ハ通信ニ關スル業務ノ企畫ニ參與シ之ヲ實施ヲ掌ル

(三) 通信部附ハ部長ノ命ヲ承ケ分擔ノ業務ニ服ス

第八條 本隊ノ組織及任務左ノ如シ

- 一、本隊ハ本部及三大隊ヨリ成リ大隊ハ大隊本部及三中隊ヨリ成ル
- 二、本隊長ハ報國隊長之ヲ兼ネ本部ハ報國隊本部之ヲ兼ヌ
- 三、大隊本部
 - (一) 大隊本部ハ大隊長大隊副官及大隊附ヨリ成ル
 - (二) 大隊長ハ大隊ヲ統率シ隊紀ヲ振作シ風紀ヲ肅正シ部下訓練ノ責ニ任ズ
 - (三) 大隊長ハ特ニ中隊ノ訓練及内務ヲ指導監督シテ報國隊長ノ意圖ヲ徹底セシム
 - (四) 大隊長ハ報國隊長ノ命ヲ承ケ人事、兵器、器具、施設、給養、衛生、内務等大隊諸般ノ業務ヲ監督處理ス
 - (五) 大隊長ハ報國隊長ニ具申スベキ事項アルトキハ副官部ヲ通ジテ之ヲ行フ
 - (六) 大隊副官ノ業務ハ本部副官ニ就キ規定シアルモノニ準ズ
 - (七) 大隊附ハ大隊ノ給養衛生ニ關スル業務ニ服ス
- 四、中隊
 - (一) 中隊ハ二小隊ヨリ成リ小隊ハ三乃至四分隊ヨリ成ル
 - (二) 中隊長ハ中隊ヲ統率シ隊紀ヲ振作シ部下訓練ノ責ニ任ズ
 - (三) 中隊長ハ上官ノ命ヲ承ケ人事、兵器、器具、施設、給養、衛生、内務等中隊諸

般ノ業務ヲ處理ス

- (四) 中隊附ハ中隊長ノ命ヲ承ケ分擔ノ業務ニ服ス
- 第九條 特別警備隊ハ第二大隊隊員中ヨリ非常災變時ニ於ケル特別警備ノ任ニ當リ得ル者ヲ以テ之ヲ組織ス
- 第十條 本報國隊ノ編成ハ附表ノ如シ

第三章 其他

- 第十一條 學校防護ハ山口高等學校報國隊及防護團規程ニヨル
- 第十二條 非常召集ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

附 則

本規程ハ昭和十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○校務分掌規程

第一條 校務ヲ綜合分掌スル爲左ノ部課ヲ置ク

- 一、教授部
- 二、修練部
- 三、庶務課
- 四、會計課

第二條 教授部ハ左ノ如ク之ヲ分ツ

- 一、教務課
- 二、圖書課

第三條 修練部ハ左ノ如ク之ヲ分ツ

- 一、生活課
- 二、研修課
- 三、體鍊課

第四條 本校ニ教頭ヲ置クコトヲ得教頭ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ校務及鴻南報國團ノ團務ヲ掌理ス

第五條 各部ニ部長ヲ置ク部長ハ教授又ハ生徒主事ノ中ヨリ學校長之ヲ命ズ教頭ノ指揮ヲ承ケ部ノ事務ヲ掌理ス

第六條 各課ニ課長ヲ置ク教授又ハ生徒主事ノ中ヨリ學校長之ヲ命ズ部長ノ指揮ヲ承ケ課ノ事務ヲ掌ル

但シ會計課長ハ書記ヲ以テ之ニ充ツ

第七條 各課ニ課勤務教官ヲ置クコトヲ得課勤務教官ハ教官ノ中ヨリ學校長之ヲ命ズ

部長及課長ノ指揮ヲ承ケ課ノ事務ヲ分掌ス

第八條 書記及事務員ハ各課ニ分屬ス部長及課長ノ命ヲ承ケ事務ニ從事ス

第九條 各學科ニ學科主任ヲ置ク學科主任ハ教官ノ中ヨリ學校長之ヲ命ズ教授部長及教務課長ノ指揮ヲ承ケ各學科ノ教授ニ關スル事項ヲ管掌ス

第十條 各學級ニ學級主任ヲ置ク學級主任ハ教官ノ中ヨリ學校長之ヲ命ズ教授部長及修練部長ノ指揮ヲ承ケ擔任學級生徒ノ教授及修練ニ關スル事項ニ管掌ス

第十一條 本校教育ノ主旨ヲ徹底セシムル爲指導教官ヲ置ク、指導教官ハ教官ノ中ヨリ學校長之ヲ命ズ學級主任ト相俟ツテ一般教官及父兄保證人ト連絡ヲ保チ所屬生徒ノ在學中之方鍊成ニ當ル

第十二條 庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一、御眞影及勅語ノ奉安等ニ關スル事項
- 二、儀式ニ關スル事項
- 三、校旗ニ關スル事項
- 四、官印及校印ニ關スル事項
- 五、職員及傭人ノ進退、身分及服務ニ關スル事項
- 六、職員ノ諸證明書等ニ關スル事項
- 七、職員ノ身體檢査ニ關スル事項
- 八、文書ノ接受及發送ニ關スル事項
- 九、教官ノ諸會議ニ關スル事項
- 十、會議室及其ノ揭示ニ關スル事項
- 十一、本校ニ於ケル宿直ニ關スル事項
- 十二、寄贈ノ金品等ニ關スル事項
- 十三、誓聲堂ニ關スル事項
- 十四、鴻南報國團ノ庶務ニ關スル事項
- 十五、庶務課ニ屬スル文書ノ起案及保存ニ關スル事項

十六、他課ニ屬セザル事項

第十三條 會計課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一、豫算及決算ニ關スル事項
 - 二、金錢出納ニ關スル事項
 - 三、支出官印ノ保管ニ關スル事項
 - 四、國有財産及資金ニ關スル事項
 - 五、物品ノ購入及修理ニ關スル事項
 - 六、物品ノ出納、保管及不用品ノ處分ニ關スル事項
 - 七、營繕ニ關スル事項
 - 八、政府職員共濟組合ニ關スル事項
 - 九、鴻南報國團ノ會計ニ關スル事項
 - 十、會計課ニ屬スル文書ノ起案及保存ニ關スル事項
- 第十四條 教授部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 教授部教務課ノ事務左ノ如シ
- 一、教授部ニ於ケル綜合事務ニ關スル事項

- 二、教授ノ企畫及實施ニ關スル事項
- 三、教科書選定ニ關スル事項
- 四、入學試験ニ關スル事項
- 五、入學式、卒業式及卒業證書ニ關スル事項
- 六、入團式ニ關スル事項
- 七、入學、休學及退學ニ關スル事項
- 八、學籍簿、戶籍抄本及保證書ニ關スル事項
- 九、試験、修了及卒業ニ關スル事項
- 十、學級主任及學級編成ニ關スル事項
- 十一、指導教官ニ關スル事項
- 十二、生徒幹事ニ關スル事項
- 十三、大學入學ニ關スル事項
- 十四、卒業生ノ諸證明ニ關スル事項
- 十五、教官ノ研究ニ關スル事項
- 十六、學力檢定ニ關スル事項

- 十七、參觀人ノ取扱ニ關スル事項
 - 十八、教官室及教室ニ關スル事項
 - 十九、鴻南報國團總務部ニ關スル事項
 - 二十、教務課及鴻南報國團總務部ニ屬スル文書ノ起案及保存ニ關スル事項
- 教授部圖書課ノ事務左ノ如シ
- 一、圖書ノ整理保存及出納ニ關スル事項
 - 二、圖書ノ選定及購入、寄贈圖書ノ受理ニ寄託圖書ノ取扱ニ關スル事項
 - 三、圖書ノ貸出及修理ニ關スル事項
 - 四、書庫及閱覽室ニ關スル事項
 - 五、教科書ノ購入ニ關スル事項
 - 六、日本文化講義等ニ關スル事項
 - 七、諸規則ノ制定、改廢等ニ關スル事項
 - 八、學校一覽及統計報告ニ關スル事項
 - 九、圖書目錄ニ關スル事項
 - 十、新聞、雜誌、年報、一覽等ノ保管、整理及出納ニ關スル事項

- 十一、圖書課ニ屬スル文書ノ起案及保存ニ關スル事項
第十五條 修練部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
修練部生活課ノ事務左ノ如シ
- 一、修練部ニ於ケル綜合事務ニ關スル事項
 - 二、生活指導ノ企畫及實施ニ關スル事項
 - 三、時局的行事ニ關スル事項
 - 四、芳影室ニ關スル事項
 - 五、練成合宿ニ關スル事項
 - 六、食料増産ニ關スル事項
 - 七、遅刻、缺課、缺席及忌引ニ關スル事項
 - 八、鴻南寮ニ關スル事項
 - 九、鴻南寮ニ於ケル宿直ニ關スル事項
 - 十、入寮ニ關スル事項
 - 十一、學資ニ關スル事項
 - 十二、集會ニ關スル事項

- 十三、揭示及印刷ニ關スル事項
 - 十四、賞罰ニ關スル事項
 - 十五、生徒ノ旅客運賃割引證、身分證明書、旅行證明書等ニ關スル事項
 - 十六、報國寮ニ關スル事項
 - 十七、生徒食堂ニ關スル事項
 - 十八、鴻南報國團生活部ニ關スル事項
 - 十九、生活課及鴻南報國團生活部ニ屬スル文書ノ起案及保存ニ關スル事項
- 修練部研修課ノ事務左ノ如シ
- 一、研修指導ノ企畫及實施ニ關スル事項
 - 二、讀書指導ニ關スル事項
 - 三、鴻南報國團誌ノ編纂ニ關スル事項
 - 四、鴻南報國團研修部ニ關スル事項
 - 五、研修課及鴻南報國團研修部ニ屬スル文書ノ起案及保存ニ關スル事項
- 修練部體鍊課ノ事務左ノ如シ
- 一、體鍊指導ノ企畫並ニ實施ニ關スル事項

- 二、報國隊ニ關スル事項
- 三、勤勞作業ニ關スル事項
- 四、防空及警備ニ關スル事項
- 五、兵役ニ關スル事項
- 六、生徒ノ身體検査ニ關スル事項
- 七、體力検査ニ關スル事項
- 八、體力章檢定ニ關スル事項
- 九、學校衛生及防疫ニ關スル事項
- 十、百鍊堂、有備館、生徒控所及運動場ニ關スル事項
- 十一、鴻南報國團體鍊部ニ關スル事項
- 十二、體鍊課及鴻南報國團體鍊部ニ屬スル文書ノ起案及保存ニ關スル事項
- 第十六條 學校長ノ諮問ニ應ズルタメ審議會ヲ置ク審議會ハ教頭部長課長及課勤務教授並ニ他ノ教官ノ中ヨリ學校長ノ命ジタル者ヲ以テ之ヲ構成ス
- 第十七條 學校長ハ部課長會議、學科主任會議、學級主任會議、教官會議等ヲ開クコトヲ得
- 第十八條 各部又ハ各課ハ相互ニ連絡シ教授及修練ノ向上ヲ圖ルモノトス
- 第十九條 部課長ハ業務スルヲ妨グズ

○御眞影竝勅語謄本奉護規程

- 第一條 御眞影竝勅語謄本ハ白木ノ箱ニ納メテ奉安庫ニ奉安ス
- 奉安庫ハ校長室ニ之ヲ安置ス
- 第二條 奉安庫ノ鍵ハ内扉用外扉用ノ二個ヲ一組トスルモノ二組ヲ備フ各別ニ鍵袋ニ納メテ學校長之ニ封印シ一組ハ庶務主任ニ於テ一組ハ宿直員ニ於テ之ヲ保管ス
- 第三條 宿直員巡視ハ奉安庫ノ奉護ニ特ニ注意スベシ
- 第四條 宿直員交替スルトキハ奉安庫外扉ノ鎖鑰及鍵袋ノ異常ノ有無ヲ檢シテ之ヲ授受スベシ
- 第五條 學校長ハ毎月一回第一月曜日ニ奉安庫ヲ開キテ御眞影竝勅語謄本ノ異常ノ有無ヲ檢ス
- 第六條 御眞影ハ式日ニハ硝子板ヲ箝メタル白木ノ額面ニ納メテ式場（誓幹堂）ノ正面ノ奉掲室ニ奉掲シテ奉拜ス
- 第七條 非常變災ノ場合ニハ奉納箱ノ儘奉還用袋ニ納メ左ノ奉還所ニ奉還ス
- 第一奉還所 山口高等女學校
- 第二奉還所 湯田國民學校

○校旗規程

- 第一條 校旗ハ本校ヲ代表スル標識トス
但シ副校旗ヲ以テ之ニ代フルコトアルベシ
- 第二條 校旗出場ノ場合左ノ如シ
皇族ノ奉送迎
紀元節、天長節及明治節祝賀式
教育ニ關スル勅語奉讀式
青少年學徒ニ賜ハリタル勅語奉讀式
入學式、入團式及卒業式
觀閲式
創立記念式
學校長新任及退任式
學校長ニ於テ指定シタル場合
- 第三條 旗手班ハ誘導長一名、旗手一名、護衛二名トス

- 第四條 旗手及護衛ハ學校長之ヲ命ジソノ任期ハ一學年トス
- 第五條 校旗及副校旗ハ庶務課ニ於テ之ヲ保管ス

○職員

(昭和十九年八月一日現在)

校長

文學士 山本與吉 石川

教授

歷史科、經國科、人文科

文學士 匹田直分

外國語科、選修科

文學士 金尾音美 山口

外國語科

文學士 米澤直人 山口

數學科

工學士 吉峯弘造 京都

數學科

理學博士

理學士 佐藤三郎 山口

外國語科

文學士 岡崎虎雄 山口

歷史科、人文科、選修科

文學士 小川五郎 山口

外國語科、選修科

文學士 北村義男 東京

(在外研究中)

(應召中)

文學士 田中泰逸 愛知

文學士 石黒俊三 愛知

文學士 村上至孝 京都

理學士 寺崎恒信 宮城

工學士 遠藤健也 東京

理學士 長尾一男 山形

文學士 木村健一 京都

文學士 高橋英太郎 廣島

理學士 森岡正陽 東京

文學士 白井爲正 兵庫

理學士 鯨井治一 山崎

文學士 井本正一 山崎

文學士 內藤農一 山崎

理學士 森本農一 山崎

理學士 吉松廣延 宮崎

文學士 隆高鑑 千葉

生徒主事

外國語科
 古典科、選修科
 物理科
 數學科
 物理科
 外國語科、選修科
 自然科、博物科
 哲學科
 數學科
 化學科
 古典科、人文科
 歷史科、選修科、經國科、人文科
 博物科
 自然科、博物科

(兼) 教授 文學士 石中象治 熊本
 陸軍軍事教官 今田浩 山口
 廣島師團司令部附 陸軍大佐 有田一郎 熊本
 廣島師團司令部附 陸軍中尉 中村勘吉 山口

助教 授

體鍊科 中村勘吉 山口
 體鍊科 紙本榮一 山口
 體鍊科(兼) 侯賀助 功 熊本
 體鍊科(兼) 渡邊 熊本
 (應召中) 生徒主事補

備外國人教師

外國語科、選修科
 ドクトル、デル、フィロソフイ(ミュンステル大學)ヴェルネル、プライビツシュ 獨國
 講 師 (就職順) 文學士 滿井信太郎 千葉
 古典科、人文科、選修科

化學科 安永峻五 福岡
 教練科 新田茂治 山口
 教練科 池田寅雄 山口
 教練科(應召中) 陸軍中尉 重田寅雄 山口
 教練科(應召中) 陸軍大尉 前田保雄 山口
 教練科(應召中) 陸軍中尉 橋本均 山口
 山口經濟專門學校教授 佐伯富香川

書記

(應召中)

生徒主事補 直木太一 岡山
 林田靜雄 山口
 渡邊匡亮 熊本
 侯賀助 山口
 事務囑託 平井兵太郎 山口

雇

藤井敏子	小田村知惠子	井上竹子	福島信子	大谷澄子	長本良子	田中スミ子	桑原ミドリ	松野忠夫	寺田義人	山崎博一	能野信一	阿川靜代	小幡亦一
山口	山口	山口	山口	山口	山口	山口	山口	山口	山口	山口	山口	山口	山口

學校醫

學級主任

文科第三學年二組
 文科第三學年二組
 理科第三學年一組
 理科第三學年二組
 理科第三學年三組
 理科第三學年四組
 文科第二學年一組
 文科第二學年二組
 理科第二學年甲類一組
 理科第二學年甲類二組
 理科第二學年乙類一組
 理科第二學年乙類二組

醫學博士
醫學士

教授	教授	教授	教授	教授	教授	教授	教授	教授	教授	教授	教授	教授	教授
赤川次郎	伊勢良男	木戸正一	森岡至孝	村上恒信	寺崎直人	米澤信一	堀本農一	井藤晃一	內藤健晃	長南健	白井爲治	北村義男	高橋英太郎

文科第一學年
 理科第一學年甲類一組
 理科第一學年甲類二組
 理科第一學年甲類三組
 理科第一學年乙類一組
 理科第一學年乙類二組

學科主任

道義科、哲學科、人文科
 古典科
 歷史科、經國科
 數學科
 物理科
 化學科
 博物科
 自然科

教	教	教	教	教	教	教	教	教	教	教	教	教	教	教
授	授	授	授	授	授	授	授	授	授	授	授	授	授	授
高	森	鯨	寺	山	匹	井	隆	鯨	石	岡	佐	山	小	
橋		井	崎	仲	田	本		井	中	崎	藤	仲	川	
英	敏	正	恒	幸		農	高	正	象	虎	三	幸	五	
太	之	治	信	夫	直	一	鑑	治	治	雄	郎	夫	郎	
郎														

外國語科
 選修科
 教練科
 體鍊科

助	講	教	教											
教	師	授	授											
授														
中	新	堀	金											
村	田		尾											
勘		信	音											
一	明	一	美											

○生徒徒

(昭和十九年四月調)

一生徒氏名

第三學年

文科一組

(二六名)

山田公平	山口豐浦	彌益祥純	山口德山	村田圭司	山口山口
松井千秋	山口釜山公	水野邦重	千葉群山公	村田圭司	山口山口
西川紳一	東京麻布	林田信雄	福岡嘉穂	藤井善之助	福岡嘉穂
内藤進	立第三	西田爲敏	山口豐浦	西山英雄	山口吳第一
十河一郎	山口八幡	友安輝男	山口豐浦	中川昌一	三重尾張
島本喜内	大阪大連	杉田隆介	兵庫神戸第三	關岡光生	大阪灘
勝野泰審	和歌山和歌山	小西迪哉	京都京都第一	佐野佳一郎	東京立一商
岡野哲三	廣島釜山公	兼重淳一	山口東京芝	影山泰	岡山第一岡山
淺川明	山口釜山公	今井宏	山口萩	大深駿一郎	山口元山公

文科二組

(二六名)

荒尾東一	岡山横須賀	稻本年穂	和歌山田邊	内田博就	山口立第六
小畑又藏	山口豐浦	角豐信	山口門司	蔭山忠雄	福井天王寺
河村捷郎	山口山口	片峰隆晃	大分京都第三	河野義男	山口萩
小迫邦男	廣島廣島第一	河野玄磨	山口山口	嵯峨時重	兵庫第三神戸
西郷隆雄	山口立第八	坂本恒政	大阪高津	高野官治	山口京都第三
辻隆叶	岡山高梁	鐵井四郎	山口大連第一	西岡頼昭	愛知小牧
福島芳廣	長野大町	深谷眞也	京都京都第二	藤澤達郎	廣島麻布
本多哲郎	熊本大邱公	三森琢爾	福島大連第一	村上宗彦	山口宇部
山根滋	山口防府	和井田文造	大阪住吉	村上宗彦	山口宇部

理科一組

(三七名)

阿部秀夫	山口湖南中	井上司郎	兵庫小野	石川健	山口山口
彌政和平	山口山口	池田喜三	山口萩	市川進	山口萩
伊藤陸三	三重灘	泉逸夫	和歌山神宮	牛見章	山口灘
植原泰久	廣島第二神戸	梅本高久	山口尼中	江口寛	大分戸畑

岡崎 正	山口	東京第五立	川口 重美	山口 下關	黑島 英三郎	香川 小豆島
黒瀬 哲英	山口	山口	小部 彦二	佐賀 第二神戶	小若 正倫	岡山 第二岡山
齊藤 信光	山口	下關	志道 忠生	山口 八幡	高富 啓輔	岡山 第二岡山
田中 捷太郎	山口	旅順	田中 茂穂	岡山 山口	田添 信一	熊本 立第三
德永 淳次	山口	戸畑	中川 清	廣島 下關	長富 保	山口 豊浦
中村 周行	大阪	桃山	野村 泰雄	山口 山口	原田 浩志	岡山 誠之館
益野 清	島根	津和野	横野 豊	山口 平塚第一	水口 一	東京 湖南
森川 隆次	千葉	成東	山根 讓治	山口 安下庄	山岡 一三	岡山 高梁
山口 玲一郎	島根	防府				

理科二組 (三五名)

相澤 哲郎	宮城	光州東公立	岩本 壽敏	福岡 嘉穂	尾崎 良克	大阪 京都第一
嘉藤 良次郎	山口	山口	國廣 敏之	大阪 市岡	栗林 旺	大分 鞍手
近藤 正三	香川	大連	鈴木 健一	岡山 住吉	辰己 俊夫	奈良 八尾
恒茂 紘	臺南	嘉義	中原 敬	廣島 廣島第二	中野 良知	山口 山口
長弘 雄次	山口	釜山公立	中島 俊夫	山口 上野	仁紫 宏保	廣島 誠之館

西原 哲河	平安南	平壤第二	半場 郁夫	靜岡 山口	林 孝夫	山口 山口
廣瀬 隆治	福岡	嘉穂	藤田 六郎	山口 山口	伏田 福	京都 横濱第三
藤井 成朗	山口	徳山	福岡 史郎	大阪 市岡	溝口 哲郎	山口 豊浦
圓尾 正博	大阪	住吉	松岡 史郎	福岡 第二神戶	山縣 彰	山口 山口
村田 旭	山口	山口	山本 眞喜雄	山口 徳山	山縣 彰	山口 山口
山田 彌彦	大阪	高津	吉田 正樹	山口 下關	米本 明	大阪 住吉
吉岡 新次	山口	釜山公立	渡邊 徹	岐阜 山口		

理科三組 (三七名)

相本 勇一	山口	徳山	今村 秀彦	三重 富田	上野 衛	山口 下關
大林 直之	香川	丸龜	小田 最亮	山口 柳井	川口 一	茨城 麻布
河合 滿	島根	松江	川勝 建太郎	東京 釜山公立	兒玉 正興	東京 山口
近藤 章	愛知	鞍山	佐野 敏朗	廣島 府中	酒井 章男	大阪 高津
澤原 宣彦	岡山	龍野	定近 一夫	山口 立第一	新谷 信夫	熊本 熊本
白井 健	山口	山口	重廣 豊彦	山口 徳山	高野 桂	福岡 東筑
田淵 元之	岡山	京城公立	瀧口 一	山口 京都第三	玉置 光夫	徳島 第一岡山

中西	岡山	誠之館	中西	勵	奈良	畝傍	西河	直	兵庫	第二神戸
野津	山口	德山	西村	周郎	山口	高松	野津	聖	島根	大連第一
平田	滋賀	彦根	濱口	剛一	兵庫	洲本	弘	英雄	山口	小倉
山田	山口	山口	本多	平三郎	愛知	刈谷	村山	正雄	福岡	門司
渡邊	岐阜	第一京都	安永	幸二郎	山口	山口	好中	都夫	山口	岩國
淺井	山口	宇部								

理科四組 (三三名)

淺井	愛知	明倫	石崎	省吾	千葉	安房	石田	豐重	大分	佐伯
勝矢	奈良	高津	河西	克郎	神奈川	湖南	橋高	俊二	廣島	京城公立
木村	福岡	鞍手	楠川	晃	山形	山口	小泉	忠雄	山口	防府
小出	東京	芝	佐藤	敬夫	千葉	成東	蔡	東華	臺南州	瀨川
坂根	山口	興風	白井	傳之	山口	立第二	竹中	博道	山口	豐浦
高木	静岡	榛原	高橋	達海	岡山	米子	田中	政己	廣島	廣島第二
知念	沖繩	沖繩第二	時浦	昌平	大阪	豐浦	中島	源男	山口	北野
中村	島根	三次	仁位	信輝	長崎	對島	廣瀨	佳哉	大分	大分

藤田	島根	育英	松野	喬	山口	萩	丸岡	芳樹	兵庫	住吉
三宅	山口	宇部	三浦	裕	廣島	吳第一	溝口	史郎	山口	豐浦
村田	山口	萩	山下	好秋	山口	平壤第一				

第二學年

文科一組 (三八名)

有吉	山口	萩	石川	喜郎	茨城	山口	今川	修	山口	防府
池田	山口	山口	内田	龍哉	香川	光州東	大西	實	兵庫	洲本
織田	福岡	若松	小川	泰一	東京	鞍山	越智	悟	大阪	住吉
香川	山口	萩	川島	宏	京都	京都第一	龜谷	禮次	山口	元山公立
藤田	山口	第一神戸	小原	公輔	島根	萩	小守	虎雄	和歌山	田邊
佐藤	岡山	第一岡山	西篠	保	香川	九龜	篠原	博	廣島	吳第二
白石	山口	宇部	篠原	理	山口	奉天第二	篠田	基治	山口	徳山
田中	山口	柳井	田万	侃	香川	住吉	田坪	義信	大阪	八尾
武内	福岡	東筑	高橋	秀夫	福岡	山口	辻野	啓三	和歌山	和歌山
西野	福井	日大第二	原田	利光	大分	佐伯	波多野	茂彌	京都	舞鶴

原田 尙 山口 山口 久富 哲雄 山口 防府 藤岡 俊介 山口 大連第一
 福田 眞己 山口 中津 堀池 慶一 静岡 大連 森村 昌夫 大阪 八尾
 山下 哲則 兵庫 第三神戸 米田 實男 奈良 五條

文科二組 (四一名)

井川 一 和歌山 日高 池田 一夫 福岡 天王寺 池田 謙一 岡山 湘南
 市古 武文 愛知 刈谷 伊藤 裕夫 鳥取 高津 入江 章 福岡 嘉穂
 上杉 高幹 大阪 桃山 大島 五雄 大阪 住吉 大梁 篤二 滋賀 膳所
 河村 治人 山口 山口 河野 良太郎 山口 大田公 木村 陽一 滋賀 八尾
 瀬川 進 京都 京都第一 園 守 大阪 高津 竹田 彰夫 大阪 高津
 橋岡 重行 熊本 延岡 津名 康弘 和歌山 粉河 中島 正 東京 湘南
 中村 恒易 山口 下關 二階堂 潔 新潟 京城公 花房 博 岡山 第一東京
 原田 友視 山口 京城 平井 龍 山口 柳井 藤野 祐一 岡山 高梁
 堀越 登喜雄 東京 天王寺 堀田 敏 滋賀 立第五 本多 賢次 大阪 高津
 牧野 良三 大阪 堺 松本 友之 山口 德山 榊 谷晴弘 山口 豊浦
 水主 好章 徳島 撫養 三瀬 信雄 愛媛 八尾 峯 石秀雄 山口 釜山公

山口 彰市 千葉 安房 山下 享祐 山口 奉天第二 山田 淳 山口 豊浦
 矢野 淳一 高知 麻布 横山 寛治 山口 大津 吉見 勉 福岡 安下庄
 羅吉 煊 新竹州 私立國民 脇永 安 山口 山口

理科甲類一組 (四七名)

新井 諭 廣島 吳第二 秋村 嘉穂 山口 明石 栗村 久二郎 大阪 住吉
 石田 裕 山口 北野 石橋 泰信 千葉 刈谷 岩本 暢 山口 大分
 池本 晴雄 山口 柳井 伊藤 制儀 山口 興風 宇多田 正純 山口 宇都宮
 上野 五郎 山口 山口 上村 久生 三重 宇治山田 上杉 保正 山口 大津
 江木 隆一 山口 萩 落合 浩 山口 豊浦 岡田 洋 廣島 膳所
 河相 裕雄 廣島 羅南公 片岡 益美 廣島 大連 木村 健太郎 鳥根 住吉
 佐々木 稔 山口 山口 志賀 宏 山口 丸龜 柴田 文典 山口 山口
 篠原 逸平 千葉 成東 鹽見 磯夫 山口 千葉 竹本 國博 山口 下關
 武田 博光 大阪 泉尾工業 高比良 義郎 長崎 釜山公 田中 信彦 山口 岩國
 竹村 圭郎 山口 第三神戸 高尾 清次 熊本 宇部 寺坂 勝 福岡 嘉穂
 寺戸 俊成 山口 萩 中島 和久 岡山 防府 中村 肇 東京 釜山公

細田武彦	山口宇部	西見宏行	山口山口	西村輝夫	京都住吉
橋上正	香川尾道	日高俊男	島根津和野	藤井昭二	山口豊浦
堀泰明	奈良立第六	松野清孝	山口宇部	三島孟	静岡大連
宮野猛郎	岡山赤穂	村瀬一郎	岡山吳第一	山中德三	山口萩
山本登	山口徳山	吉武哲也	山口宇部		

理科甲類二組

(四六名)

市山正	山口防府	市川祥介	山口防府	今田謙	香川九龜
井上清	山口麻布夜間	尾中雄一郎	山口防府	大下忠夫	山口全州南公
小田達治	山口大津	岡本四郎	大阪茨木	織田昌雄	山口山口
鳥鷹宏	兵庫第二神戸	梅永薰	山口臺北第一	兼本正則	廣島吳第一
神本恭良	山口吳第一	佐貫眞平	兵庫第三神戸	佐藤温	大分宇佐
佐瀬勝	奈良灘	定近泰夫	山口宇部	清水郁男	山口湘南
島一司	京都奈良	菅田英夫	山口下松工業	千住大和	佐賀釜山公
樽谷俊和	廣島門司	田中達夫	京都住吉	田澤晃	静岡富士
高津章	山口山口	高松攻	山口廣島師附屬	中野博夫	和歌山住吉

中村潤	熊本天王寺	寶迫晏	山口徳山	中村謙司	山口徳山
早川巖	山口吳第二	弘津啓三	山口羅南公	平川金四郎	山口山口
福田一二	和歌山粉河	藤津昭平	山口萩	藤本茂夫	山口全州南公
古海宏一	福岡立第八	古橋一馬	山口萩	北條英典	山口下關
松永健藏	山口宇部	美濃地忠敬	島根濱田	宮井正一	大阪市岡
矢田幸輔	大阪高津	山田啓之助	京都奈良	山内孝	大阪住吉
吉井和男	福岡門司				

理科乙類一組

(四〇名)

石川哲也	兵庫高津	入江友祐	山口防府	稻田雍	島根防府
上田正夫	廣島三次	金子仁之	山口山口	梶原義典	福岡福岡
木村惇	島根津和野	切替弘雄	千葉木更津	喜多清	兵庫第三神戸
國崎悟	福岡鞍山	小林春秋男	廣島平壤第一	神代昭	山口北野
作花文雄	山口豊浦	酒井謙一	岡山住吉	更谷一夫	奈良奈良
鹽田日出夫	山口山口	白石博	山口豊浦	澄川勸	島根濱田
鈴木利夫	山形宇部	依田孝明	山口宇部	竹本忠良	廣島格致

谷口利廣	和歌山	和歌山	谷	弘光	香川	丸龜	津田	穰	山口	山口
津崎修	大分	防府	手束	尙	德島	阿波	友近	宏	山口	防府
豐田雄一郎	大分	宇佐	中江	正典	京都	住吉	西田	英司	廣島	三次
野田浩司	和歌山	田邊	埴岡	範雄	兵庫	山口	林	瑛	鳥根	宇部
馬淵冬樹	岐阜	大垣	松下	裕	山口	花連港	宮川	正	兵庫	住吉
壬生良	大分	茨木	安本	裕	兵庫	鳥取第一	山本	毅	兵庫	三田
吉田稔	兵庫	京都第一								

理科乙類二組

(四二名)

荒谷順郎	兵庫	神戸第三	青木	幹雄	山口	天王寺	井上	房生	大阪	山口
入江琢夫	山口	防府	岡村	穰	岡山	第二神戸	小野	尊隆	岡山	高梁
角野嘉孝	山口	大津	河村	桂五郎	山口	豊浦	片山	彬	岡山	松山
清成正智	山口	山口	黒澤	誠	山口	横濱第二	國安	好	山口	山口
越川望	大阪	天王寺	古崎	晃	愛媛	東京日本	齊藤	淳一	鳥根	濱田
佐々木滋郎	山口	萩	澁木	俊次	新潟	大連	鹽山	惇臣	福岡	三池
重松正文	福岡	門司	杉藤	史郎	愛知	津島	田淵	厚美	香川	京華

文科 第一學年

(四四名)

高須武	京都	甲陽	内藤	一男	山口	山口	西本	孝一	京都	京都第二
馬越傳一	香川	豊中	馬場	宏	和歌山	和歌山	弘津	勤	山口	柳井
廣瀬信吾	三重	富田	古谷	旭	山口	山口	古川	一郎	大分	佐伯
福田正則	静岡	沼津	藤原	昭	山口	尾崎	藤井	宏康	山口	山口
松村進	奈良	市岡	光尾	好弘	福岡	釜山	村田	健二郎	山口	防府
山内万壽美	鳥根	濱田	山本	剛夫	山口	岩國	山川	健一	岐阜	大垣
山根繁	山口	山口	興本	長兵衛	大阪	住吉	和高	修	廣島	高田

陶村功	山口萩	相山達夫	山口防府	田中裕	京都茨木
田村暢重	山口山口	高木貢	山口岩國	田中祥治郎	山口防府
高橋信一	大阪住吉	高木茂	山口山口	坪井二郎	山口防府
富岡登	和歌山伊都	德見寅男	山口山口	平田秀司	大阪立第六
中山堅三	滋賀膳所	長井肇	島根濱田	野草明	兵庫第一神戸
弘津節郎	山口甲陽	弘友保	山口柳井	藤田正夫	山口廣島高
堀雅夫	山口大津	松本高士	山口防府	松吉康夫	山口廣島高
向井英	岡山高梁	元田宇三郎	山口宇部	森脇哲男	山口安下庄
渡邊周治	山口芦屋				山口山口

理科甲類三組

(四〇名)

石井義亮	山口山口	伊藤道人	山口奈良	岡野堯好	廣島釜山公
河井陽一	山口豐浦	木村康彦	兵庫第二神戸	木戸弘	三重宇治山田
久保田穰	静岡豐浦	熊谷加祿	山口防府	舩本成和	大阪堺
小山俊雄	東京攻玉社	佐藤三雄	廣島仙臺陸幼	佐々木一郎	山口山口
進藤明夫	鳥取豐浦	清水照一	山口徳山	品川顯二	山口高松一

理科乙類一組

(四三名)

志茂昌輝	和歌山海草	鈴木雅文	廣島宇部	谷垣昭	兵庫今宮
高橋大	山口防府	田中昭	山口山口	高野士郎	山口山口
千葉良二	岩手大垣	寺尾英二	山口下關	中川正剛	福岡鞍手
西村十一	山口下關	野上充夫	島根濱田	原豐明	大阪桃山
平田秀司	大阪高津	平川暹	廣島吳一	東村高穂	宮崎成興公
兵藤史朗	愛知米子	福井紀生	三重上野	福田寛	鳥取豐岡
藤岡誠一郎	山口豐浦	松尾裕彦	佐賀三池	松田易	山口山口
村山浩	栃木立第八	吉田眞	福岡東筑	米口肇	兵庫膳所
渡邊恒隆	福岡門司				
有田直孝	山口豊浦	秋吉邦一郎	福岡豊中	磯部一也	山口防府
飯森忠康	東京早稻田	岩垂信	長野諏訪	上野茂男	京都佐賀
上山嗣郎	山口山口	上野寛	山形米澤興	小川寅年	鳥根濱田
岡島昭	山口山口	岡崎洋一郎	神奈川山口	大原俊夫	廣島之館
木村一友	福岡戸畑	垣岡健一	大阪高津	城戸龍雄	福岡横濱第三
古賀謙吉	福岡三池	近藤達見	山口岩國	小竹淳一	茨城龍野

小松原誠一	大阪堺	齊藤義信	山口防府	佐武憲二	大阪桃山
蔡東隆	臺南州龍川	篠原昭治	山口奉天第二	末廣澄夫	山口岩國
谷口勉	三重津	田中文男	岡山五條	津山正昭	兵庫關西學院
中村安夫	宮崎延岡	中島碧	山口豐浦	中村信一	山口成興公
長山義雄	京畿京畿公	原野和夫	山口山口	久岡信夫	山口豐浦
福田宏	千葉立教	福永進	東京麻布	堀内忠司	奈良畝傍
松田賢助	山口山口	前野淳一郎	岡山新京第二	三原亟治	山口山口
山本太晃	高知鹿兒島	吉田豐滿	山口柳井	吉安祐一	山口防府
和田純一	鳥根濱田				

理科乙類二組

(四三名)

淺野哲朗	山口宇部	池田博親	山口宇部	伊藤弘	山口宇部
池田脩	大阪曉星	板阪耕爾	廣島德島	岩瀬仁	愛知豊橋第二
石田裕	大阪堺	石井洋治	廣島之館	井上博行	東京豊浦
圓城武雄	滋賀彦根	小野貞雄	岡山高粱	金井利次	奈良畝傍
窪田正治	東京東高師附中	坂井利幸	大阪堺	鳥村和夫	和歌山和歌山

杉岡哲也	山口崇徳	仙崎光夫	山口下松工	但馬浩	山口山口
谷口成一郎	京都立第二	立川卓男	鳥根濱田	辻哲夫	山口防府
遠坂治夫	京都福知山	中山利美	和歌山海南	西出順三	奈良五條
野村裕	岐阜神戶第三	濱本虎太	山口山口	鳩谷章	鳥取門司
波佐間義治	山口大津	畑中保雄	和歌山田邊	菱川創一	兵庫高津
廣瀬信道	大分佐伯	古川昭爾	佐賀宇部	藤野良一	兵庫洲本
藤島吉郎	山口柳井	堀野正治	山口萩	又賀昇	鳥根濱田
水島洪	京都舞鶴	宮本保治	山口山口	森谷信夫	兵庫宇部
森川宏	愛知膳所	安元一郎	沖繩沖繩第二	稻岡達雄	岡山元山公立
和泉徳明	廣島修道				

二 生徒學年別人員

(昭和十九年四月一日調)

種別	文 科		理 科					計
	外國語	古典及歷史	甲 類		乙 類			
			一組	二組	三組	一組	二組	
第一學年	二二	二二	四一	四〇	四〇	四三	四三	二〇七
第二學年	三一	三一	四一	四〇	四〇	四三	四三	一七四
第三學年	二六	二六	三七	三五	三五	三七	三七	一四一
計	八一	八一	一〇九	一〇八	一〇八	一〇九	一〇九	五二二

三 生徒及卒業者本籍別人員

(昭和十九年四月一日調)

道 府 縣	生 徒		卒 業 者	
	文 科	理 科	文 科	理 科
合 計	二五一	二五三	一九三	六九七

道	府	縣	三	奈	栃	茨	千	群	埼	新	長	兵	神	大	京	東	北
			重	良	木	城	葉	馬	玉	潟	崎	庫	川	阪	都	京	海
			一	二	一	一	五	一	一	一	一	六	一	一	四	九	一
			八	〇	一	二	七	一	一	二	二	二	二	二	一	二	一
			九	二	一	三	二	一	三	二	二	二	二	四	一	二	一
			一〇	二	五	六	八	六	五	三	二	六	八	四	二	二	二
			一〇	一	三	八	九	一	八	八	一	五	五	三	二	四	一
			二〇	三	八	一	七	七	一	一	四	二	一	八	五	七	三

宮	熊	佐	大	福	高	愛	香	德	和	山	廣	岡	島	鳥
崎	本	賀	分	岡	知	媛	川	島	山	口	島	山	根	取
1	2	1	4	9	1	1	3	1	10	63	6	9	1	4
3	4	4	12	28	1	2	9	2	13	214	31	24	22	4
3	6	4	16	37	2	3	12	3	23	279	37	33	23	8
8	11	12	27	81	7	21	16	13	11	731	88	31	36	9
6	15	10	27	86	6	14	25	6	13	738	100	32	38	10
14	26	22	54	167	13	35	41	19	24	1,469	188	63	74	19

富	石	福	秋	福	山	青	岩	宮	長	岐	滋	山	靜	愛
山	川	井	田	島	形	森	手	城	野	阜	賀	梨	岡	知
1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	3	1	1	2
1	1	1	1	1	3	1	2	1	1	5	3	1	6	7
1	1	3	1	2	3	1	2	2	2	5	6	1	7	9
2	5	4	5	5	4	1	2	6	5	1	8	4	10	12
1	4	5	6	1	3	1	4	1	8	16	6	2	21	14
2	9	9	1	5	7	1	6	7	13	27	14	6	31	26

卒業者進入大學別人員表

總計	年 八							
	計	京城商國大學	東京商業大學	東京工業大學	岡山醫科大學	新潟醫科大學	熊本醫科大學	千葉醫科大學
七三三	二九							
一一二〇	一一							
四〇〇	二四							
二七一	一二							
五三〇	七〇		四					
一一七	五							
二三五	一四							
六一一	三五				二		一	二
三								
八								
三								
一								
三、〇三二	二〇〇			四	二		一	二

卒業者進入大學別人員表

十 和 昭										
總計	九州醫學專門學校	公立大學	廣島文理科大學	神戸商業大學	東京工業大學	滿洲醫科大學	東 京			金澤醫科大學
							東京帝國大學	京都帝國大學	東北帝國大學	
七〇四							八	二		
一〇九								九	二	
三七六							六	一	八	
二五九			四				一〇	二	二	
四六〇		二			一九		一三	二	二	
一一二								二	二	
二二一							一	三	一	
五七六		四					三	一	一	一〇
三七六							三			
三										
八				八						
三										
一										
二、八三二	一	六	四	八	一九	一〇	五一	七九	六	三

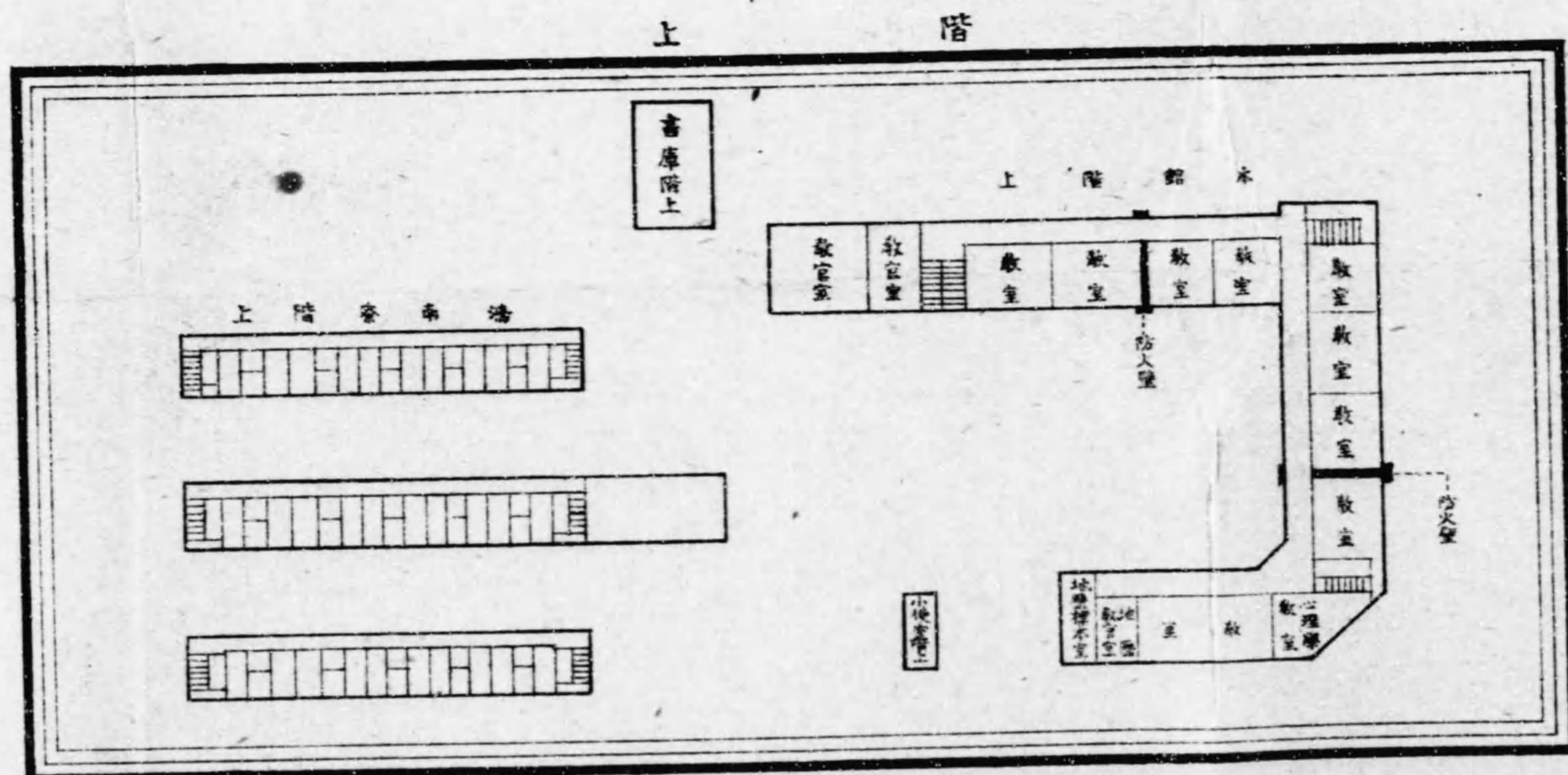
○敷地及建物

- 一、山口高等學校ノ敷地ハ山口縣山口市大字上宇野令ニ在リ其ノ面積ハ壹萬九千九百六拾九坪七合八勺ニシテ之ニ建設セル建物ノ總坪數ハ參千八拾六坪三合七勺（内ニ階建坪六百七拾七坪五合五勺ニナリ）
- 一、備外國人教師官舎ハ二箇所ニ建設シアリテ其ノ一ノ敷地ハ山口縣山口市大字上宇野令宇野田東第九百貳拾參番面積百五拾坪ヲ賃借シ之ニ建設セル住宅ノ總坪數ハ四拾六坪八合七勺五（内ニ階建坪拾四坪）ナリ其ノ二ノ敷地ハ同縣同市大字上宇野令字向山第二千八百六番ノ二ニ在リ其ノ面積ハ二百三坪九合五勺ニシテ之ニ建設セル建物ノ總坪數ハ四拾六坪三合七勺四ニシテ住宅建坪四拾四坪參合七勺四（内ニ階建坪拾八坪六勺一）附屬物置貳坪ナリ



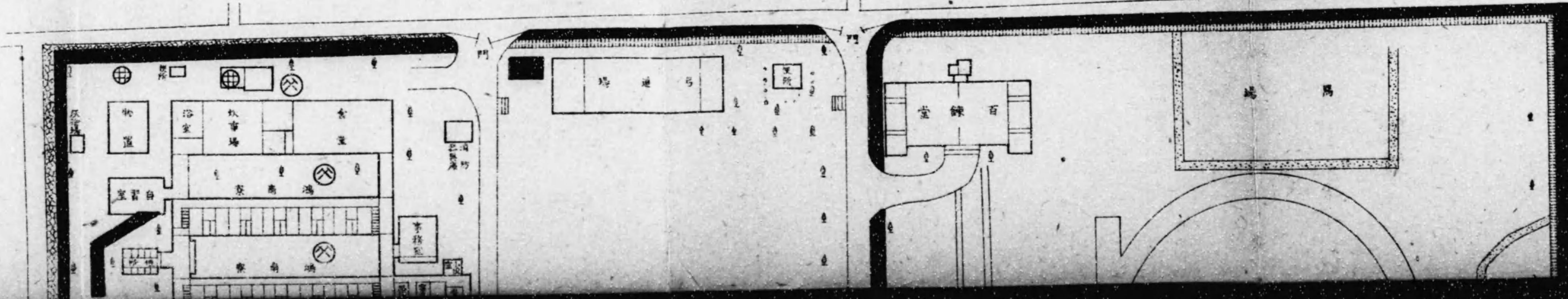
山 口 高 等 學 校 平 面 圖

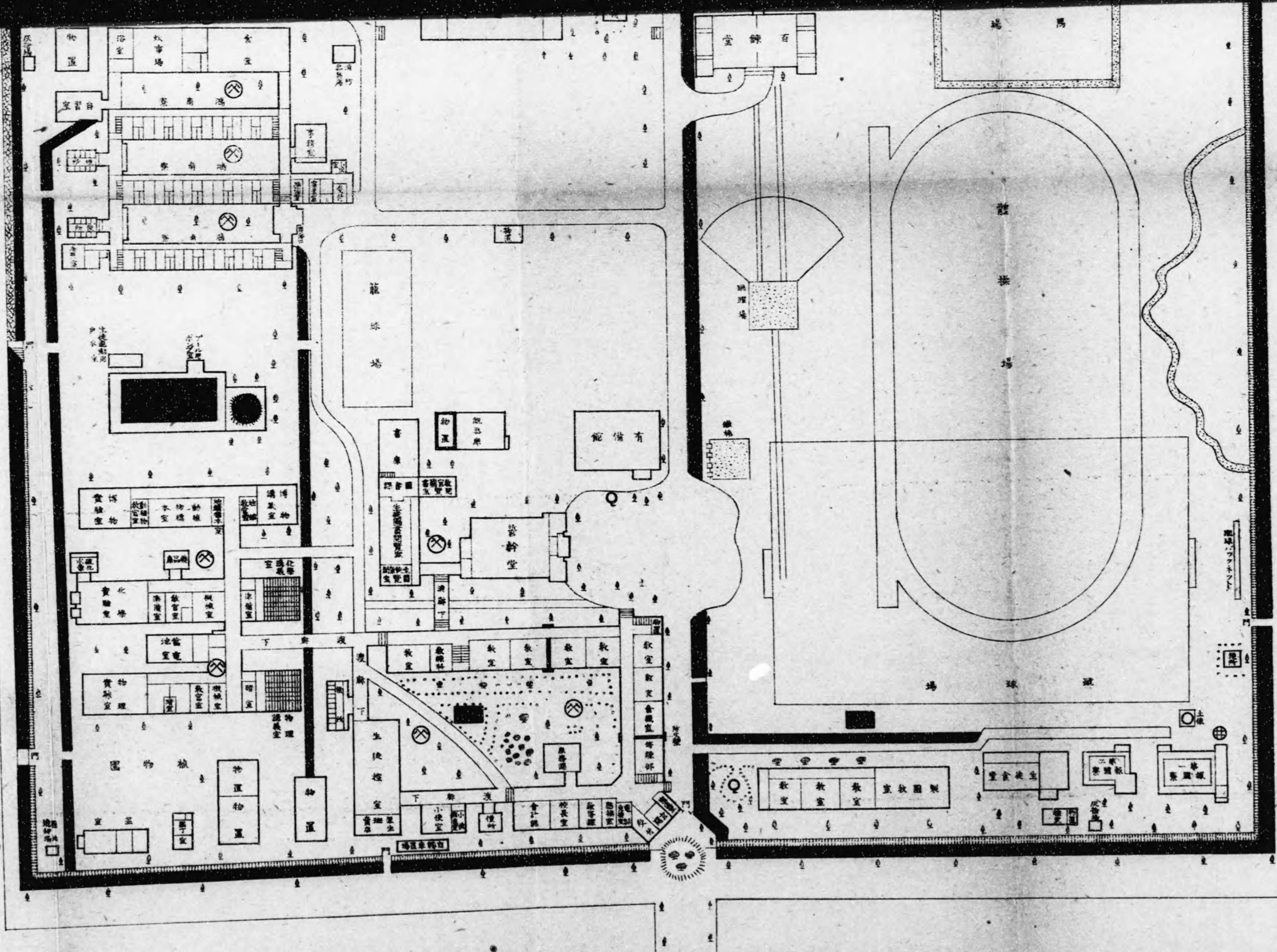
縮 尺 二 千 分 之 一



例 凡

⊗	⊕	☀	🌳	♀	▨	▩		符號
消	井	菜	樹	胸	土	石	道	名
火	戶	庭	木	像	坡	垣	路	稱





舊山口高等學校卒業者名簿

本名籍ハ山口高等商業學校ノ證明ヲ得テ五
 名數ナルモノナリ

卒業者

氏名ノ上×ハ死亡

(一) 山口高等中學校本科卒業者 (四十一人)

明治二十四年七月卒業 (五人)

理學士 本莊 熊次郎 山口 工學士×張 令紀 山口 文學士×芳川 太郎 吉 山口
 法學士×村 重 俊 樋 山口 法學士×山 中 政 亮 山口

明治二十五年七月卒業 (十三人)

工學士×井 原 毅 郎 山口 文學士×河 口 隆 太郎 山口 法學士 吉 田 眞 一 山口
 法學士×上 山 滿 之 進 山口 文學士×熊 谷 五 郎 山口 理學士×熊 谷 時 之 助 山口
 工學士 藏 重 哲 三 山口 法學士×松 井 豐 太 郎 山口 法學士 松 崎 壽 三 山口
 理學士×齋 藤 敏 藏 山口 工學士×佐 伯 芳 馬 山口 工學士×鹽 田 經 助 山口
 法學士×平 佐 榮 太 郎

明治二十六年七月卒業 (十人)

農學士 伊 藤 悌 藏 山口 理學士 井 上 禧 之 助 山口 理學士 西 英 盛 山口
 理學博士

卒業者

卒業者

理學士×河内山幸作 山口 文學士村上俊江 山口
文學士藤末三平 山口 法學士×佐々木道彦 山口
文學士敏介 山口

明治二十七年七月卒業 (十三人)

法學士×岩政憲三 山口 法學士×伊香賀矢六 山口
工學士井上幸一 山口 法學士×江木翼 山口
工學士×金重林之助 山口 工學士×橫島雄介 山口
工學士×永見桂二 山口 工學士×阿川重郎 山口
工學士×末廣忠介 山口 文學士佐藤馬太 山口

(二) 山口高等學校大學豫科卒業者 (五百四十九人)

明治二十八年七月卒業 (二十六人)
法學士岩田寅造 山口 文學士岩田博藏 山口
法學士稻村篤太 山口 工學士×原田豊喜 大阪
工學士×龜山理平 太岡山 工學士川部孫四郎 山口
文學士井上要二 山口
文學士和田琳熊 山口
工學士桂弁三 山口

文學士橫山達三 山口 文學士×武井悌四郎 兵庫
×田上鹿槌 山口 工學士×妻木省三 山口
文學士村田稔亮 山口 工學士×桑田五九郎 東京
農學士×山根眞逸 山口 工學士町原 福井
工學士×青木壽 北海道 法學士屬 最吉 山口
法學士×湯淺倉平 東京 工學士杉 卯七 山口

明治二十九年七月卒業 (二十七人)

工學士石川 鼎 兵庫 工學士今井長治 東京
文學士×西晉)郎 鳥取 文學士×土肥實雄 山口
工學士大島十郎 山口 大田 豐 山口
文學士×柿山清 鳥取 工學士×精谷陽二 山口
工學士橫倉英次郎 石川 文學士玉木三郎 廣島
工學士高橋武太郎 岡山 法學士×中村時章 山口
理學士松原俊造 山口 工學士藤井光藏 山口
×赤羽 彰 長野 法學士×河野鶴三郎 山口
法學士湯原理三郎 大阪 文學士杉山助之進 山口
法學士澤田牛麿 高知

卒業者

文學士×佐々木久槌 山口 醫學士 佐藤 得齋 秋田 醫學士×佐藤 松介 山口
 醫學士 佐分利良民 山口 醫學士 今福改 功 東京 醫學士×坂元平藏 鹿兒島
 醫學士×岸野加久治 福岡 醫學士×柴野改 毅 栃木 ×島本新松 山口
 醫學士×榎恒春 三口 醫學士×森 繁吉 山形

明治三十二年七月卒業

(五十二人)

×伊香賀敬介 山口 工學士 磯崎清吉 德島 法學士 服部國造 山口
 ×波多野貫一 山口 工學士×原川慶作 兵庫 工學士 德田文作 山口
 工學士×豐國彦太郎 山口 法學士 大谷源之助 德島 工學士 大河戸宗治 山口
 法學士 金子幹太 山口 工學士×片山正雄 山口 文學士×吉川虎市 山口
 文學士 河内才三 山口 工學士×佐尾正一 山口 工學士 武村清徳 德島
 工學士×横井加之吉 德島 醫學士 高安六郎 大阪 醫學士×鶴本琢治郎 德島
 瀧口清作 山口 醫學士 南波宗次郎 德島 醫學士 中村勸 兵庫
 法學士 夏秋十郎 佐賀 工學士×白井野改 景明 山口 醫學士 内野仙一 山口
 工學士×上山武男 山口 工學士×羽下都部 金三郎 東京 工學士 藤治人 山口
 野口權藏 廣島 醫學士×國羽光改 短三 山口 法學士×山内節三 山口
 工學士 隈部謙長崎

工學士×山縣將質 山口 工學士 山崎忠直 山口 醫學士×柳小太郎 佐賀
 松園儀十郎 長崎 醫學士×眞島隆輔 山口 ×福井春次郎 岡山
 醫學士×古谷昱藏 山口 醫學士×小松初太郎 高知 法學士 楊井孫八 山口
 文學士×阿部秀助 福岡 醫學士×境 岬 福岡 醫學士×坂井精一 山口
 法學士 三浦顯藏 山口 法學士×美郷新太郎 山口 文學士 三井誠之進 山口
 醫學士×篠原昌治 山口 林學士 穴戸乙熊 山口 法學士 平佐純俊 山口
 醫學博士 水津彌吉 島根 林學博士

明治三十三年七月卒業

(四十二人)

醫學士×市川清山 山口 法學士 井上清二 和歌山 文學士 泉道雄 山口
 醫學博士 西川博長崎 醫學士 綿織芳島根 法學士×堀江三雄 福岡
 文學士 大塚武松 山口 文學士 小原要逸 山口 工學士 奥山嘉一 鹿兒島
 醫學士×大村充山 山口 文學士 若月保治 山口 工學士×渡邊清吾 山口
 工學士 梶山秀男 山口 醫學士 勝野井素一 山口 法學士×横田郷助 山口
 法學士 田中喜介 山口 法學士×武田次郎 山口 工學士 高島京江 山口
 工學士 長屋正山 山口 ×永井潔 山口 工學士 村上正輔 兵庫
 醫學士 野崎常典 山口 醫學士 野原又三 山口 工學士 草刈小太郎 山口

工學士	師井清一	山口	醫學士	山内	習宮城	醫學士	山崎重長	宮崎
法學士	古川邦彦	山口	工學士	藤本繁雄	山口	醫學士	神代正一	山口
法學士	荒地清介	山口	工學士	鮎川義介	山口	醫學士	淺海庄一	山口
醫學士	清田	稍福岡	醫學士	澤野虎次	兵庫	農學士	宮川助一	山口
醫學士	三好忠良	鳥根	法學士	潮見茂樹	山口	法學士	穴戶進一	山口
工學士	下田百合	太山	醫學士	靜間省三	山口	工學士	毛利忠三	山口

明治三十四年七月卒業

(五十六人)

法學士	鶴田幸太郎	佐賀	法學士	掛井生治	山口	法學士	三浦實生	廣島
法學士	勝野井改	靜水	法學士	阿部壽準	山口	法學士	増山忠次	山口
法學士	中村俊輔	山口	工學士	武弘仁一	山口	法學士	檀	治福岡
法學士	林良太郎	鳥取	法學士	安木利三	鳥取	法學士	三卷俊太	山口
法學士	佐々木仙助	山口	法學士	衣川莊藏	兵庫	法學士	中村卓爾	島根
法學士	藤本改	一山口	法學士	坂井隆三	山口	法學士	田邊敏行	東京
經濟學博士	作田莊一	山口	金子正道	山口	文學士	森重貫一	山口	
文學士	美爾嘉衛七	山口	文學士	中山權三	廣島	工學士	岡崎正伸	山口
工學士	益田元亮	山口	工學士	宗方次郎	山口	工學士	岡崎正伸	山口

工學士	阿部梧一	山口	工學士	山縣諭一	山口	工學士	西牟田農民	佐賀	
工學士	小澤原孫七	福岡	工學士	石田辰三郎	京都	工學士	上司東一郎	山口	
工學士	伊藤達三	山口	工學士	湯淺宗一	山口	福屋見義	山口		
工學士	鐘ヶ江忠吾	福岡	工學士	服部廉輔	愛知	工學士	阿野健虎	山口	
工學士	楠田改	安五郎	山口	工學士	永續純次郎	山口	工學士	小林長輔	大阪
醫學士	杉原健彦	山口	醫學士	中島駒次郎	佐賀	醫學士	五十嵐英一	福井	
醫學士	岩本改	郁彦	山口	醫學士	國重嘉吉	山口	醫學士	末次恭平	山口
醫學士	阿武金槌	山口	醫學士	寺戶英介	山口	醫學士	牟田郁孜	佐賀	
醫學士	石田吉治	山口	醫學士	河村一郎	福岡	醫學士	上田改	山口	
醫學士	戸早幾太郎	福岡	醫學士	廣田直衛	福岡	醫學士	江島正一	山口	

明治三十四年九月卒業

(一人)

井上知男 山口

明治三十五年七月卒業

(六十八人)

法學士	石津改	五郎	山口	法學士	河内山榮三	山口	法學士	井上德太郎	山口
法學士	國光	五郎	山口	法學士	河内山榮三	山口	法學士	武安福	男山口
法學士	入江貫一	東京	法學士	深田十藏	山口	法學士	武安福	男山口	
法學士	吉田潤一	山口	法學士	村上	寬山口	法學士	古谷一衛	山口	

醫學士	佐々篤次郎	福岡	醫學士	渡邊新十郎	大分	醫學士	十時	實	福岡
醫學士	岡村信三郎	山口	醫學士	松尾春吉	山口	醫學士	吉田土佐太郎	佐賀	
醫學士	×奈良崎信助	山口	法學士	大倉文男	徳島	醫學士	鈴木善之助	東京	
醫學士	井上勝一	山口	醫學士	山田改	山口	醫學士	吉野改	山口	
醫學士	×重見	山口	醫學士	藤田得三	山口	醫學士	石川源二	山口	
醫學士	藤井成一	山口	醫學士	張忠一	山口	醫學士	×笹尾勝藏	山口	
醫學士	×重松	山口	醫學士	兒玉琢	山口	醫學士	澤田速介	鳥根	
醫學士	×福田	山口	醫學士	中井猛之進	山口	醫學士	湯淺豊五郎	徳島	
醫學士	×藤原	山口	醫學士	雜賀信三郎	山口	醫學士	大森謹平	栃木	
醫學士	×千羽彦二	東京	醫學士	齋野秀雄	鳥根	醫學士	北脇滿三	新潟	
醫學士	×新宮	東京	醫學士	大竹改	山口	醫學士	阿部文五郎	大阪	
醫學士	×内海	廣島	醫學士	×中	山口	醫學士	高田敦二	徳島	
醫學士	佐野成太郎	東京	醫學士	松本保三	山口	醫學士	淺見誓堂	福岡	
醫學士	山嶺東一	佐賀	醫學士	×三宅秀之助	廣島	醫學士	若原貞一	岐阜	
醫學士	×左野	鳥根	醫學士	×尾曾越俊三	廣島	醫學士	水津信治	鳥根	
醫學士	×西平五郎	奈良	醫學士	伊藤野改	廣島	醫學士	田中耕作	兵庫	
醫學士	×石原永愛	山梨	醫學士	若山要二	山口	醫學士	×江木米一	佐賀	

醫學士 吉田改 吉田改 永原 恭福岡

(三) 山口高等學校大學豫科卒業者 (二百八十三人) 明治三十八年七月卒業 (百十八人)

法學士	×加藤金輔	山口	法學士	山縣素介	山口	文學士	安田恭平	鳥根	
法學士	加島真槌	山口	文學士	×岩橋遠成	和加山	法學士	鈴木文治	宮城	
法學士	松村義一	山口	文學士	服部寛一	山口	文學士	青木健作	山口	
法學士	×渡邊久圓	東京	文學士	荒瀬邦介	山口	法學士	×益田國康	徳島	
法學士	中野邦一	佐賀	文學士	藤村三郎	山口	文學士	青木道	山口	
法學士	河添鑑	京都	文學士	×横山三穂	山口	文學士	豊島剛介	東京	
法學士	石井政之助	和歌山	法學士	兼房重太郎	東京	法學士	石版廣平	山梨	
法學士	三田利一	山口	文學士	×奥田誠一	三重	法學士	菊屋孫輔	山口	
法學士	白石壽雄	福島	法學士	小原榮藏	岩手	法學士	井上主計	山口	
法學士	池田壯太郎	福岡	法學士	×磯村吉平	福岡	法學士	清瀬一郎	兵庫	
法學士	×木村正太郎	山口	法學士	×相浦改	山口	文學士	東暢	山口	
法學士	×湯原網	山口	法學士	横田貞祐	山口	法學士	山本靜馬	大阪	
法學士	伊藤勤助	山口	醫學士	×岡隆三郎	兵庫	法學士	利光學一	東京	

法學士原	佐一	山口	×異地辰太郎	山口	法學士吉田健三郎	德島
法學士稻田	競三	三重	文學士青木	正兵庫	法學士世良菊之輔	山口
文學士平田華藏	山口	法學士山本	實靜岡	法學士木村教諦	大阪	
法學士樋口松太郎	大阪	文學士藤本萬治	山口	法學士中島傳次郎	大阪	
法學士×中井俊藏	鳥取	法學士岡	雅枝	高知	大井成章	東京
法學士永尾晃人	山口	文學博士石橋	智信	北海道	文學士野田磨太郎	佐賀
文學士白石	勉愛媛	法學士後藤虎之助	大阪	法學士×竹內泰次	香川	
法學士大津謙武	茨城	法學士坂本章造	山口	法學士稻津孫曾	東京	
法學士×武井志郎	長崎	法學士宗近順吉	山口	法學士×有田義昭	佐賀	
大久保憲三郎	新潟	法學士中村廣吉	廣島	法學士×富永一二	長崎	
有馬	東京	法學士山下定市	和歌山	法學士宮原伸太郎	岡山	
文學士下鄉繁三郎	愛知	×蒲生政光	長崎	法學士松澤	清	大阪
法學士辻	純奈良	法學士岡本經紀	東京	法學士小森政之	京都	
法學士見戶浩鏡	岡山	×田平常吉	兵庫	法學士土岐定應	大分	
法學士藤本治政	大阪	法學士貞廣安盛	京都	法學士×秋本實平	山口	
法學士齋藤直橋	宮城	文學士西村忠治	東京	法學士小西恭平	京都	

法學士富田豐松	奈良	法學士×菱田	光國	長崎	法學士堀端房一	愛媛
法學士塚本浩次	岐阜	法學士上村改	務大阪	法學士×大崎哲郎	宮城	
法學士相知秀雄	長崎	法學士小田清一	佐賀	青木寬治	東京	
工學士林	新作	工學士柳屋佐祐	山口	工學士桑原重治	山口	
工學士×比留間	敏東京	×堀	駿福岡	工學士森川三省	福岡	
工學士谷口三郎	廣島	工學士德永虎吉	德島	工學士大田明治	山口	
工學士×高坂淺吉	新潟	工學士×河村誠之	山口	工學士岡本辰次郎	東京	
工學士久芳道雄	山口	工學士春木節郎	鳥根	工學士正木壽郎	廣島	
工學士岡	義明	工學士梶本吾市	兵庫	工學士三原	久福岡	
工學士稻垣長止	愛知	工學士鈴木鎮雄	東京	工學士×武田	敢東京	
工學士和田安戶	德島	工學士大谷直五郎	山口	工學士×武田	敢東京	
工學士津田敏雄	愛媛	工學士佐上京作	廣島	工學士×武田	敢東京	
工學士武弘邦輔	山口	工學士江口鶴雄	山形	工學士×武田	敢東京	
工學士×中川淳造	廣島	工學士藏成信一	山口	工學士×武田	敢東京	
工學士橫井堅治	大阪	工學士吉川忠	廣島	工學士×武田	敢東京	
農學士酒井	燕岡山	農學士津田弘之助	大阪	文學博士	磯見八太郎	福井

283
20

昭和十九年八月廿五日印刷
昭和十九年九月一日發行

編輯者兼
發行者

山口縣山口市新米
山口高等學校

印刷者

山口縣山口市新橋町第十番地
(南山一〇二)品川 幸一

印刷所

山口縣山口市新橋町第十番地
大内印刷所

